最も大なる他の二は獨逸人に屬せり、中に就き一は資本十八萬弗にして、三割四分の配當を爲せり、又其一の資本は五十八萬五千弗なり、斯かる有利の營業も亦佛人の掌裏より脱せり。

(四)其他の農產物　印度支那に於て其他の農產物の試作を爲したるに、頗る好結果を得たり、東京に於ては珈琲煙草及砂糖、交趾支那に於ては胡椒、安南に於ては珈琲茶甘蔗及護謨即ち是れなり、ツーラーヌ港より輸出の砂糖は一年八千噸、其價百十萬四千法。

(原註)　茶の栽培は安南のツーラーヌ及東京の太原に於て好成績を現はせり、其品質は以て支那の普通茶と競爭するに足れり。

政府は又上部老檜に於て茶の栽培を奬勵せり。

(五)生絲　東京の三角洲は廣東府に相對する一大養蠶地方なり、十年以來生絲の輸出額は九十萬基魯に達せり、不幸にして佛國及佛領植民地幷他國の生絲に對し稅率を上せ、百基魯に百法を課することゝなりたるより、輸出額は著しく減じたり、即ち廣東府への輸出額は、百十萬法より六十萬法まで低減せり、其の佛國への輸入額には左までの影響なかりしと雖も、一八九六年の同額は十二萬法を減ぜり、但し東京の生絲は品質優等なれば、年に二萬五千捆、約三千五百萬法を輸入する支那生絲を壓し、行〻之に代ること亦難きに非ざる可し、現に英國獨逸就中瑞西へは、西貢の繭を輸入しつゝあり。

(原註)　生絲製造は河內、南定及萬寧に於て盛なり、但し此業も亦全然支那人の掌握する所なり。

(六)棉　は印度支那に於ける未來有望の物產なり、就中東埔寨は其特產地たり是れ年々湄公河の溢出に由り、澄泥を地方に播布するに由りてなり、近四年來此地に綿棉工場の創設せられしより、棉花の產額は四倍に上れり、獨り憾む可きは土地の沃饒なるに反し、人口の寡少なること、即ち是れなり。

(七)佛國棉布　は他の雜貨に對し、其保護は稅率三割の多きに達するに由り、輸入の額年々增加せり、即ち

	年次	佛國より輸入	外國より輸入
東京	一八九二年	八三〇、〇〇〇法	一、五五五、五九〇法
	一八九六年	二、二二七、〇〇〇	九〇四、九〇六

交趾支那
一八九二年……三、一〇八、〇〇〇……九、八六二、七三〇
一八九六年……七、四二七、〇〇〇……一二、〇三一、八七二

東京輸入の大分は、紡績、絲の占むる所にして、其額年々三千噸に達す、若し之に雲南への輸入額を加ふれば、少くも六千噸即ち一千萬法に上る可し、之に關し、佛國よりの輸入は稅率二割三分の保護あるにも係はらず、極めて微々たり、惟ふに我印度支那に於ける棉の耕作は何ほどまでも擴大するを得べく、手工は最も其地住民の所長にして、賃銀は低廉なり、加之石炭の產出地たり、宜しく紡績場を起し、其需用に應ずべし、是れ決して本國工業の妨となるものに非ず。一八九五年以來、河內には一萬千錘の一紡績場あり、又アンペンの近傍には支那人に屬する一繰棉風車場あり。

(八)木材　印度支那に於ける森林の富や廣大なり、殊に老樹は之が中心たり、比年隣國支那に於ては木材の拂底を告げ來りしより、我植民地の林木は愈益重要とはなれり、廣東府は實に第一の顧客たり、但だ之が行政に就きては、濫伐の制限、輸出稅の輕減、之を必要と爲すのみ。(本稅は實に過重に失し、安南出口の如き、四割に及べり、亦甚しからずや)。又老樹は貴重の材木に富めり。

(原註)　ヴェンの近傍ベンチに材木會社一箇所あり、河內及海防には燐寸製造所あり、此二製造所も亦支那人の有する所。

(九)石炭及鑛物　東京の採炭に於ける、最も重要なる事業なり、英佛の統計に據れば、現に新嘉坡、上海、間に於て、一年に消費する石炭の額は三百萬噸にして、其中百八十萬噸は即ち日本の石炭なり。

日本の石炭は脂氣多く烟も亦多し、之に反し東京の石炭は難燃質にして、脂氣少く無煙なり、從ひて其品質も亦劣等なり、但し火力は非常に強きを見る、現に土瀝青(アスファルト)若くは松脂を用ゐ、煉炭と爲して輸出せり。

今や之が爲に二會社の創立せらるゝあり。其一は、東京採炭會社にして、社を巴黎とホンハイに置き、其資本金六百萬法、ナガトナト及河內附近ハフの二箇處に於て採掘に從事せり。其二は、

クバオ會社にして、其資本額も亦六百萬法、前のホンハイ炭に比すれば、クバオの炭質は良〻劣れり。

今ま兩會社の採掘額を擧ぐれば左の如し、

	一八九五年	一八九六年	一八九七年
ケバオ	三、五〇〇噸	三五、〇〇〇噸	六〇、〇〇〇噸
ホンハイ	七〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇

此石炭は幾ど皆香港に輸出し、此より更に諸方に再出せり、一八九六年には廣東府に輸送せし炭額四萬一千噸(七十五萬法)上海に積出せし炭額約六萬噸なりき、尚ほ新嘉坡の製錫場にてはホンハイ炭を使用せり。

佛國政府はエム、エム會社に對し同社消費炭額の六割はホンハイ炭を使用すべき旨を命令せり、其他警備用船にも亦之を命じたり、而も佛國軍艦はケバオ炭を採用せず。

但だ東京の石炭は、獨りケバオ及ホンハイのみならず、紅河上流の地方エンバイ及老開の附近に於て多脂質炭を發見せり、是れ煉炭に製造するを用ゐず、直ちに以て搬出す可し、又安南に於ては近ごろノーソン及ツーランスの炭礦再掘を試みにき、是れ英國のジョージ、カーゾン氏が巡遊の際、一見驚嘆せし厚層の

礦脈とす、不幸にして力効相酬はず、事業は又復た拋棄せられたり、然れども他日東京及安南鐵道成るに至らば、採掘の大に觀る可きものあらん。

又北部東京、老槢安南、東埔寨の或部分には未だ多く知られざる豐富の諸鑛あり、東埔寨中のコムポンソアイ州に於ては五、百萬、乃至七、百萬噸を算す可き鐵鑛脈を發見せり。

老槢の鑛物に富むや實に大なり、鐵あり、銅あり、朱あり、安質母尼あり、金あり、種々の寶石あり、不幸にして交通便ならず、湄公河も亦未だ實用的航路たらず、是れ之を憾と爲すのみ。

(十)牧畜　は結果の頗る看る可きものありと雖も、今ま尚ほ試驗中に在り、然れども牛羊は之を佛國種と交はらしめ、既に良成績を得たり、豚の如きも亦有望なり、其他の動物も徐々として進境に向へり。

第三節　東京隣省の現狀

東京の隣省に關しては、第一章中西江流域の部に記載したる所の如し、但だ吾輩が此に再たび喚起せんと欲するは、此地方たる、人口少く、富も亦、中部及北部

支那に如かざるに在り、然も將來の發達期す可からざるには非ず、貿易の材料亦決して缺乏せざること是れなり。

(一)雲南省　の貿易額は幾ど一千七百萬法に上り、内七百萬法は英國緬甸との貿易に屬し、一千萬法は佛領東京との貿易に屬せり、然も歐人の管理以外に屬する商業、即百色、南寧、北海の通路を經由する貿易額、乃至鴉片の密貿易及四川貴州に對する行商の交易とを合算せば、雲南の貿易額、決して此に止ざるなり。雲南に於ける鑛山の富は莫大にして、佛國は之が採掘の特權を有せり、但だ本省の缺點は道路の不便に在り、他日交通にして容易なるに至らば、商工業の隆盛も亦期して待つ可きなり。

本省は扳海二千米突の高に在るを以て氣候最も歐人に適し、住民も亦獰惡ならず。

(二)廣西省　は叛徒の淵藪にして、動亂常に絶へることわらず、隣三省中最も見込少なき地方なり、只但だ良鑛山に富めると、養蠶の見る可きあり、西江及鬱江を利用し、其富の香港に牽引せらるゝを割きて、之を東京及海防に轉向せしむ。

他國は知らず日本は御免なり

海南の大島亦一終に佛領に編せんとする歟

可きなり。

(二)廣東省　は土地富實にして人煙稠密なる一海港にして、輸出輸入の一大市場なり、只だ廣東府及香港の二集點に商業を牽引すあり、佛國の貿易爲に發達を碍げらる然れども佛國は幸に北海への通路、廣州灣の占領及廣東省不割讓の利柄を有するあり、將來貿易の擴張亦望なしとせざるなり。

(四)海南島　は嘗て日本、英吉利及獨逸の窺覦せし所にして、今や佛國の勢力範圍内に在りて、東京の衛星たり、實に是れ東京灣の安寧上に必要不可缺の一島なり、佛國領事あり、現に此に在勤せり、其産物には金屬、材木、砂糖、獸皮、麻、苧、家禽及鷄卵等あり、且つ豚の如きは毎年香港に向ひ五萬頭を輸出せり、惟ふに海南島を收め取りて以て佛國の領有と爲すは、我印度支那の將來の爲に、已む可からざる所なり。

第四節　南部支那への通路

現今雲南に進入する道路は四あり、

一　佛領紅河の水路　にして、是れ東京より最近なるものなり、二十三日を

要す。

二　清領西江の水路　にして、廣東府、百色、廣南府を經由するものなり、六十日を要す（是れ英國との貿易）

三　清領の陸路　にして、北海、南寧を經由するもの、五十二日を要す。

四　英領緬甸の陸路　にしてマンダレイ及蠻窵を經由するもの、マンダレィー、蠻窵間は既に鐵道あり、蠻窵より二十八日を要す。

若し夫れ最も高價の運搬費を要する陸路の日子を計れば、

一　佛人通路　蒙化より雲南府まで十日、乃至十一日を要す。

（新註）東京より蒙化までは紅河乃至李仙江の水路に由ることを得。

二　支那人通路　百色より二十二日を要す。

三　英人通路　即ち緬甸路にして、蠻窵より二十八日を要す。上に既に記せるが如し

運搬費は一日一噸に就き、十一法六十仙なり、以て知る可し、將來如何に東京路即ち紅河水路の有望なるかを。

加之、蒙自の貿易統計は、紅河路貿易の遞進漸加を證明するものあり。

蒙自通過貿易全額

一八九〇年	一、一〇四、〇〇〇（海關兩）
一八九五年	二、八四二、〇〇〇
一八九六年	二、四七六、〇〇〇

（原註）右佛貨に換算し一千萬法。

北海路は蒙自路即ち東京路の勁敵なり、今ま最近五年間の兩路通路貿易品額を平均すれば、

北海路	四、七六四、〇〇〇（海關）
蒙自路	二、四一九、〇〇〇

蒙自路の貿易彼が如く北海路に如かざる所以のものは、是れ蒙自に達す可き李仙江の四時通航を得ざるに由りてなり、又是れ畢竟佛國が專心同江の疏通に從事せざるの結果なり、而るを況や佛國稅關の復た此貿易の發達を妨ぐるあるに於てをや、幸にして北海路の鐵道敷設權佛人の掌中に入り、諒山南寧間の鐵道既に起工せらるゝあり、以て人意を強くするを得たり。

（新註）河內諒山間の鐵道は既設に屬す、今ま起工する所は其延長線せり、是れにして成れば、貨物は南寧より直ちに海防に出す可きなり。

緬甸路は運輸の極めて困難なるに干はらず、其貿易は絶えず進歩しつゝあり、近年本路に由る貿易額は五百萬乃至八百萬法に達せり。

之を要するに東京路は最も近くして經濟的なり、將來の隆運も亦豫期す可し、若し鐵道にして竣功せん乎、支那人道路と英人道路とは共に衰運に傾んのみ。

第五節　支那に於ける佛國貿易の現狀

支那に於ける佛國の貿易は、概して支那帝國貿易總額の十分一に過ぎず、之を最近數年に徵するに、一八九六年には十五分一に降り、翌九七年には復た次昇り、其翌九八年には七分一に達せり、但だ嘆ず可きは佛國貿易額は、約二億法を算するあるも、支那より佛國への輸出額一億九千五百萬法を占め、佛國より支那への輸入額は五百萬法に過ぎざるの一事なり。

支那に於ける佛人の商館は僅々二十九行のみ、其の中には我保護を受くる瑞西人等の商館さへあり、之に反し列强國の商館は、英三百七十四行、獨逸百四行、日本四十四行、米國三十二行あり、且つ我二十九行中上海に於ける生絲商館を除けば、概ね香料、商旅館、酒店等に過ぎざるのみ。

交趾支那より年々中部支那に輸出する米の總數は五十萬噸を算するも、其中佛人の手を經由するものは僅々一部分に過ぎず、又支那より外國に輸出する茶の總額は一億噸に達するも、佛國に輸入するは五十萬噸のみ、其れすら歐洲に分配するの一集點として輸入するのみ。

我佛國北部の毛織類は支那に於て太だ珍重せらるゝ所なるも、之を輸入するは佛國商人に非ずして、英國商人なり、吾輩は我ルーベイ及リール等の織物輸出會社が、上海に支店を有するに至らんことを望まざるを得ず、又佛國棉布の高價なるは世人の知るが如くなるも然れども支那の市場に於ける棉布棉絲の全輸入額は一億九千二百萬法に達すれば、之に對しても亦計畫する所なかる可からず、我印度支那は職工の賃銀極めて廉なれば、此に紡績場を建設し、力を之に專にせば、亦彼の需用に應ずるに難からず、又我佛國より支那への輸出總額五百萬法の中二百萬法は專ら絹織物に屬せり、之に就き吾人の勁敵に日

本人あることを忘る可からず、日本の絹織物たる、其質下等なれども、年々賣店の增加するを見れば、其發奮努力も亦察知せざる可からざるなり。

更に工業上の觀點より之を察すれば、支那に缺けたる所のものは器械に至り、是れ亦我得意なる鑄造業の一吐口に非ずや、況や我鑄造場は屢〻注文の缺乏に出りて恐慌の聲を發するには非ずや。

轉じて極東に於ける我航業の如何に觀到れば、其の振はざるも亦實に太甚し、エム・エム會社の定期郵船が香港、上海、神戸、横濱に出入するの外は、佛國商船旗の海風に飜るは、香港に於てすら甚だ稀なり、左ばかり商船の輻湊する香港すら且つ然り、況や其他に於てをや、現に一八九四年の如きは、上海に於ても、日本に於ても、周年一隻の佛船だも見ざりしとぞ、而して我に代り佛國の貨物を亞洲の東岸に送致しつゝあるは果して誰ぞ、曰く英國、曰く獨逸。

（原註）獨逸のセアツン會社は香港に在りて我植民地に定期航路を開き、河內、及海防に往復し、地方の商品を載出せり。

第六節　佛領印度支那の發達及び支那に於ける佛國經濟の增進に資す可き方法手段

我佛領植民地の生產力を增進し、其富及其必要を本國にも分ち、又我勢力範圍の諸省を經營し、幷懶惰、怯懦、疎漏に由りて紀綱を失墜せる支那帝國の殘部にも我實力を擴充し、以て支那に於ける我商業的位地を發展せんが爲には、如何に現狀を改善せざる可からざる歟、是れ吾輩が此に研究指示せんと欲する所なり。

ラ子ッサン氏は其著「印度支那の過去及未來」に於て植民地未來の政事的及經濟的問題を講し、之を四項に分てり、即ち、

一　人口稀少若くは無人の地方に安南人を分配し、幷物產の運輸を容易ならしめんが爲に、佛領印度支那中重要なる各地間に、道路及鐵道を建設し、及河川航路を改善する事。

二　佛領印度支那と南部支那の隣省を聯接して、此に進入し、此に佛國の勢力を伸暢し、此に我生產を注入し、幷此より彼の物產を導出するに資せん

が爲に、戰略的兼政策的鐵道を敷設する事。

三　我經營地方の安寧を保障し、幷極東の海陸に對し我行動を快活ならしめんが爲に、陸海兩軍力を建立する事。

四　印度支那と本國間幷同植民地と極東諸國間の經濟的關係を疏通せんが爲に、稅關制及商業制を設定する事。

* * *

(一)交通道路の建設及改善　印度支那殊に東京に於て、交通道路の建設及改善は、實に重要なる刻下の問題なり、見よや、一千萬の人民は、紅河の三角洲地方に滯積するに非ずや、是れ此地方たる、土壤沃饒にして、米は一年兩度の收穫あり、然れども人口の繁多無數なる僅に之を養ふに足るのみ、是故に東京人をして第二の流域に移住せしめざる可からず、此流域は多年寇讐の侵入と戰爭との爲に放棄せられたりと雖も、今や既に靜謐に歸するあり、東京入の移住に便するの方法は講ぜざる可けんや、而して之を此に導くは只だ道路及鐵道の建設にあるのみ、何事ぞ我國は十年來、袖手傍觀して爲す所あらざりき。

河川航路の改善は、其地方の繁榮上、離る可からざるの事業なり、只だ其れ此事業を擧げ、而る後ち三角洲始めて商業上重要の地たる可し、今ま夫れ交趾支那に於ける運河の浚渫事業は、永久廢す可からざる所なり、而も其業太だ擧らず、湄公河すら尙ほ且つ無難に航行するを得ず、其安航を得るに至る、果して何の日たるやを知らず、次に紅河は河口に於て多少の工事を起したりと雖も、上流に至りては未だ言ふに足るものあらず、然も是れ雲南への一大進入路なり、回顧せよ、東京當年の征服は此進路の占領之が主眼たりしに非ずや。

東京に率、仙江あるは、猶ほ緬甸に瓦利涯池江あるがごとし、共に是れ雲南進入の山路たり、而も彼は航行の大路となりて、是は則ち然る能はず、國境の老開までは大船の進航を許さず而るを況や之より上流をや、然れども小瀛船並支那及安南の艙蒡子（ジャンク）は、四時ともに容易に之を上下するを得（之に工事を加へざる可からざるこゝは前々節に著者の說あり參觀すべし）且つ此江岸地方はシャン及緬甸國內の如く丘陵の起伏あらず、從ひて本江と江河との兩間を聯接する鐵道の建設に困難あらず、其れにして建設せられん乎、兩水に於ける通過商品の步廊たらん。

總督ヅーメル氏の交通道路問題に對する計畫は、實に東京の三角洲、安南及交趾支那の鐵道敷設に止まらず、紅河の鐵道を老開まで延長し、進みては老開雲南間の鐵道敷設權の讓受者たらしむ可き一會社の利益までをも擔保せんと欲するものなりと雖も、吾輩は暫く之を後段に讓る可し、只だ吾輩が此に一言せんと欲するは、フィーヴリール會社の事業なり、同會社はフラントン、諒山、龍州南寧府の鐵道成功を急ぎつゝあり、多分百色まで延長するに至る可し、其れにして敷設其業を卒へん乎、是れラテッサン氏が希望せし所の戰略線政策線の成功なり吾輩は尚ほ追補して言はんとす、亦是れ商略線の成功なりと。

* * *

(二)海軍根據地の創設　我植民地の安寧を維持せんが爲には、吾輩は信ず、東京を捍衛すべき陸軍あれば則ち足れりと、然も極東に於ける我艦隊の威嚴を尊重せしめんが爲には、吾輩は恐る、其數其力共に以て英吉利日本の强大なる艦隊に比する能はざるを、露國の此海に備ふる海軍は居常我よりも多し、其れすら今や其力を此に集中しつゝあるに非ずや、且つ夫れ我國が支那海に於て、根據とし、貯炭所とし、策源地として有するの地は、獨り廣州灣あるのみ、是れ以て用ゐるに足る歟。

此廣州灣の缺點に關しては、吾輩前に之を指摘せり、故に其れをして根據地とし、策源地とし、貯炭所とし、有効ならしめんと欲せば、之が衛星として、西江の方面にはサンシャン島を收め、海南島の南角にはヲリンカン灣を取らざるべからざることも、亦同時に之を主張せり、吾輩は尚ほ此に附言せんと欲す、如今一朝北支那海に事端の觸發するあらん乎、吾人は露領の旅順及大連灣の二港より以外には、我艦を泊す可き一錨地だも有せず、而して此露領の二港亦我東京の地を距ること、杳々三千基魯の外に在り、是れ豈緩急に應ずるに足らんや。

今ま此に一八九八年末の調査に係る歐洲列强、日本及北米合衆國の極東海に備ふる海軍力を列擧して、自他の地位を對照せんと欲す、其海軍は實に左の如し。

サンシャン島及カンヲリン灣は佛國の租借中に在り

* * *

(三)極東に於ける列强艦隊比較

艦名	進水年次	噸數	速力	乘員	註
英吉利—支那艦隊					
甲鐵戰鬪艦					
ヴィクトリアス	一八九五	一四、五〇〇	一七、五	七五〇	
センチュリオン	一八九二	一〇、五〇〇	一八、〇	六五〇	
バルフラー	一八九二	一〇、五〇〇	一八、〇	六五〇	
一等巡洋艦					
インモルタリテ	一八八七	五、六〇〇	一九、五	五〇〇	甲鐵
ナーシッサス	一八八六	五、六〇〇	一九、五	五〇〇	仝
アンダウンテット	一八八六	五、六〇〇	一八、七	五〇〇	仝
ポワーフル	一八九五	一四、〇〇〇	二二、〇	九〇〇	裝甲
ブレンヘイム	一八九〇	九、〇〇〇	二二、〇	六〇〇	仝
グラフトン	一八九二	七、三五〇	二〇、〇	五五〇	仝
二等巡洋艦					
ヘルミオン	一八九三	四、三五〇	一九、五	三二〇	裝甲
ボナベンチュアー	一八九二	四、三五〇	一九、五	三二〇	仝
イフィゼンア	一八九一	三、六〇〇	二〇、〇	二七五	仝
三等巡洋艦					
アラクリチー	一八八五	一、七七〇	一七、〇	一七〇	
アルサー	一八八五	一、七〇〇	一七、〇	九四	
外に報知艦十隻、破壞艇二隻、運送艦一隻、特別船四隻					
香港豫備艦					
ウィウァーン	一八六三	二、七五〇	八、五	一五〇	甲鐵海防
外に通知艦三隻、破壞艇二隻、水雷艇六隻。					
根據地　香港、後日は威海衛（工事未着手）					
露西亞—太平洋艦隊					
甲鐵戰鬪					

シッゾイ・ウエリキー	一八九四	九、〇〇〇	一六、〇	五六〇
ナウァリン	一八九一	九、五〇〇	一六、〇	六三〇

甲鐵巡洋艦

ロシヤ	一八九六	一二、二〇〇	一九、五	七三五
ルーリック	一八九二	一一、〇〇〇	一八、五	六五〇
バミアット・アゾワ	一八八八	六、六〇〇	一七、〇	五六五
ウラヂミル・モノマック	一八八三	六、〇〇〇	一七、〇	五六五
アドミラル・ゴルニロフ	一八八七	五、八〇〇	一七、〇	四五〇
ドミトリ・ドンスコイ	一八八三	五、八〇〇	一七、〇	五五〇

外に遠洋砲艦六隻、三等巡洋艦四隻、水雷報知艦二隻。

根據地　浦鹽、斯德及旅順口（防禦工事最中）

獨逸—巡洋艦隊（二分艦隊）

一等甲鐵巡洋艦

カイゼル	一八七四	八、〇〇〇	一四、〇	——

二等及三等巡洋艦

カイゼリン・オーグスタ	一八九二	六、〇〇〇	二一、五	——
ヘルタ	一八九七	六、〇〇〇	一八、五	——
イレ子	一八八七	四、五〇〇	一八、〇	——
プリンチス・ヴイルヘルム	一八八七	四、五〇〇	一八、〇	——
ゲフィオシ	一八九三	四、〇〇〇	二〇、五	——

外に四等巡洋艦一隻、遠洋砲艦一隻

佛蘭西—極東艦隊

ヴォーバン	一八八三	六、一五〇	一四、〇	甲鐵戰鬪艦
デカルト	一八九五	四、〇〇〇	二一、〇	二等巡洋艦
パスカル	一八九四	四、〇〇〇	二〇、〇	仝
ジャン・バール	一八八九	四、一六〇	一九、〇	仝
カラヴァーン	一八七六	二、〇〇〇	一〇、〇	運送通報艦
ドイッチラント	一八七四	八、〇〇〇	一四、〇	——

シュルプリーズ	一八九五	六二七	一三、五	—	砲艦
安南、東京、警備艦					
パイヤル	一八八〇	六、〇〇〇	一四、五	—	木鐵戰闘艦
クルシヤン	一八九七	一、二〇〇	一五、〇	—	一等報知艦
ジャツカン	一八八四	—	—	—	戴砲小艦
アヴァランシュ	一八八四	—	—	—	仝
外に無裝甲戴砲小艦七隻					
交趾支那小艦隊					
ステックス	一八九一	一、八〇〇	一三、〇	—	甲鐵砲艦
外に裝甲砲艦六隻					
トリオムファント	一八七七	四、七〇〇	一三、〇	—	無戰備甲鐵艦
外に報知艦、砲艦、無戰備小砲艦、計七隻					
日本—艦隊の狀態	一八九八年末				
一等甲鐵戰闘艦					
八島	一八九六	一二、五〇〇	一八、〇	六〇〇	
富士	一八九六	一二、五〇〇	一八、〇	六〇〇	
二等甲鐵戰闘艦					
扶桑	一八七七	三、七五〇	一三、〇	四〇〇	
鎮遠	一八八一	七、三〇〇	一四、五	四〇〇	
甲鐵巡洋艦					
浅間	一八九八	一〇、〇〇〇	二一、五	—	
二等巡洋艦(裝甲)					
八隻	自一八八五 至一八八九	平均四、〇〇〇	自一六、〇 至二二、五	四〇〇	
三等巡洋艦(裝甲或は甲鐵)					
五隻	—	三、〇〇〇	一九、〇	一五〇	
外に三等甲鐵海防艦三隻、三等海防艦七隻、遠洋砲艦二隻、二等砲艦十五隻、報知艦四隻、水雷艇二十八隻					
製造中の諸艦					

一等甲鐵艦四隻、各〻一萬五千噸(一九〇〇年竣成)、甲鐵巡洋艦五隻、(全年竣成)二等巡洋艦二隻、三等巡洋艦三隻、報知艦三隻、平均三十節の水雷驅逐艇九隻、平均二十五節の一等水雷艇十九隻。

根據地　横須賀、呉、佐世保

北米合衆國—亞細亞艦隊

甲鐵戰鬪艦

オレゴン	一八九三	一〇、〇〇〇	一五、〇	四七六

甲鐵海防艦

モナッドノック	一八八三	四、〇〇〇	一二、〇	一八〇
モンテレー	一八八三	四、〇〇〇	一二、〇	一八〇

裝甲巡洋艦

オリンピア	一八九二	六、〇〇〇	二二、〇	四五〇
ペルチモール	一八八八	四、六〇〇	二〇、〇	三八五
チャーレストン	一八八四	四、〇〇〇	一八、〇	四〇〇
ボストン	一八八四	三、〇〇〇	一五、五	二八〇

遠洋砲艦

ペトレル。プリンストン。コンコルト。及ヘレナ　都合四隻

太平洋艦隊

フィラデルフィア	一八八九	四、三五〇	二〇、〇	三八〇	裝甲巡洋艦
ボンニンゲトン	———	———	一、七〇〇	一七、五	二〇〇　砲艦
ヨークタウン	———	———	———	———	砲艦

(四)農工業の大經營及安南農工の利用　印度支那に於ける商業の發達に關し、支那調査會は盛に農工業大經營の必要を主張せり、全會委員長アンリー・アルニェー氏の言に曰く『今にして印度支那に於ける農工業の大經營を準備せずば、獨り支那に於てのみならず、遠羅に於ても、ボルネオに於ても、外國工業の勃興を見ん、顧ふに我印度支那たる熱帶圏下の良耕地を擁し、加之石炭に富み、農

三角洲地方の光景目に睹るが如し

工を有せり、農工業を隆興す可き條件悉く具備せるにあらずや』と。

此言實に然り、凡そ國内に於て植物如何に饒多なるも、鑛物如何に豐富なるも、若し農工ありて政府の良圖を助成するに非ざれば、事實は悉く水泡に歸せんのみ、而して農工たる要件は則ち如何、作業に在り、從順に在り、二者にして兼備せん乎、莫大の生産を擧ぐ可きや必せり、幸にして吾人は東京に於て此二者を兼備せる人民を有せり、農工業の經營に就きて亦何をか疑はんや。

東京の三角洲たる世界無比なる稠密の人口を有し、遠近の路上には往來の客群を爲し、田畝の阡陌より村落都邑まで、土人の踵背相望み、或季節には稻田の上に農夫麕集して、業に勤むる其狀遊蜂の蜜を需るに異ならず、世界の東西何れの地方にも生活の激甚未だ斯くの如くなるものを見ず、但だ此安南人は生産力支那人に及ぼざるを以て、經濟的劣等の種族と稱せらるゝも、其評や頗る誇大に失せり、彼は惰氣なき從順の農工たり、之に事業を擔任せしむれば、勤勉を以て其業を成功す、請ふ看よ、河内の燐寸製造所及三角洲の生絲製造所に使用する女工は、機巧の手練を示すに非ずや、又見よや、西貢及河内の造船所、交趾支那の河船製造所及河流交通會社に於ては、船舶の修繕及新造に安南人の旋盤工、仕上匠、機關師等一千二百人以上を使用し、其手腕毫も歐洲人の職工に劣らざるには非ずや、殊に土木事業に至りては、最も彼等の專長せる所なり、ラッサン氏は三角洲に於て彼等を使用する二十萬人以上に及び、フィーヴ・リール會社は之を使役してフラントン及諒山間鐵道敷設の難工事を成功し、又クワラム及ラックトレー間の著名なる運河は全然安南工天の手のみに由りて、成就せしことを知らざる可からず。

東京に於ては家族的生活最も發達し、一家族の結合極めて強く、所有權は無限に細分せられ、稻田の耕作亦專ら一家の用に充つるに過ぎず、從ひて爲さんと欲するも爲すべきの業足らず、非常の農工力は歐人の使役に待つものあり、但だ安南人は生國を出でゝ働くことを好まず、故に之を國外に導くには、時に歸國を許すの一方あるのみ、蓋し東京征服の當時大徵收を爲して帶出せし多數の苦力を死に致したるの記憶、未だ消滅せざるに由る歟。

佛國の征服以來勞働賃銀は著しく騰貴したりと雖も、尙其比率は笑ふ可き小

歐米人の色黄人種は所謂白人にして支那人は決して侮らざるべかりし

是れ佛領印度に於てみるなり支那人は然らず新嘉坡、槟榔嶼、香港、海防等の上海に到る處は然らざるあり

額なり、現に苦力が日傭賃は、十、二、乃、至、十、五、ス、ー、」一ス二錢の間に在り、一月に八乃至、十元(ピストル)を投ずれば、所謂ボーイ」一人を傭ひ得べし、是れ其食費一日に三四、スーに過ぎざればなり。

人數の多き彼が如く、工事に能なる彼が如く、賃銀の廉なる彼が如し、是れ我計畫の成功を助く可き者には非ずや。

抑吾人は彼等に優るの發明力を有すれば、事業の發起も亦常に吾人に屬せざる可からず、然れば彼等の高等なる董督は、我國人の掌る可き所たり。

但だ危險なるは支那人なり、極東一切の商業を壟斷する者は此支那人なり、彼等は歐洲人の興したる事業を、數年の後ちには買取りて以て自家の事業と爲す、故に英獨人は非常の注意を加へ、之が豫防に勉めつゝあり、前にも之を述べたる如く、現に我植民地に在る七大精米所中、其五箇所までは支那人の手に歸し、殘餘の二箇所が獨逸人の有として存するのみ、ブノムペンに在る棉花精製所も、元は佛人の創立せし所なるも、今は支那人の掌裏に落ちたり、危險實に斯くの如し、是れ豈豫め慮らざる可けんや。

是れ此種の人は歐洲に落ち、人の感念は全く底に伏在せり、故に戒めざるべからず

支那人は畢竟歐洲の商家と東洋の顧客との中間に立つ仲買に止めざる可からず、其れをして此兩間の仲買たらしむれば、寔に重要なる經濟的機關なり、然も農業上にても工業上にても董督者たるの任は常に歐洲人に佛國人に保留せざる可からざるなり、之を要するに我佛領印度支那に於ては、所謂中華人に對し多少の注意を要するの外は、歐洲人や、日本人や、米國人の如き、競爭者の危險あらず、吾人の此地に於ける是れ自國に在るものなり、己が家に住するものなり、從ひて植民地の富實、各種の利源、域内の安寧も亦人々の認識する所たり、然るに資本家企業家の此に着手する甚だ少なきは、臆病過ぎたるの次第に非ずや。

吾人は中部及北部支那に於て、一錨泊所一根據地の讓與をも贏得せず、故に吾人は印度支那を以て我經濟的活動の地と爲し、多く此より生産を擧げ、多く之を支那に輸出し以て外國の競敵に對するの計を爲さゞる可からず。

佛本國の極東に對する工業上、注意す可きもの二點あり。

一　消費者即ち顧客の嗜好及慣習を熟察し、之に應ずるの方法を按ずる事。

二　消費者即ち顧客と密接の關係を開き我工業品を其地に於て使用せしむるに勉むる事。

英人米人就中獨逸人は早く此理を會得して、夙に支那人の性質を研究し、支那人の無頓着なるを悟るあり、故に支那の市場に向ひては、信ず可からざるほどの廉價なる粗製品を輸入せり。

吾輩が佛國商家に勸告せんと欲する所は、先づ其事業を印度支那に擴張するに在り、次ぎて支那に進入し、其工業品を此大帝國内に周給するに在り、一言以て之を蔽へば本國たるものは其植民地の發達を自任せざる可からず、前にも一たび述べたるが如く、最良の植民政策は、能ふだけ印度支那の生産を增加し、其輸出を繁多ならしむるに在り、斯くの如くなる時は、佛國の勢力は油然として支那帝國の上に生出せん、是れ對岸の英國が印度に藉し、今日彼が如きの地位を支那に得たる所以の道なり。

＊　＊　＊

（五）稅關の改革―輸出稅の廢止　印度支那の改革に就きては、佛國政府の事業

佛國の植民地は植民地の主權を保護し、此經濟政策を採用せしに在りしなる論到

も亦多し、即ち種々の土木事業、海防に於ける林木濫伐の制限、紅河、湄公河の修正等は、固より論なし、稅關の改革も、亦刻下の重要問題なり。

現行稅關行政たる、拘泥の見に由り、不自然なる種々の檢束に出で、外國の競爭に對し、自家を防禦せる舊國の經濟制（所謂保護政策）を取りて、輕卒にも之を新國の上に實行せり、是れ思はざるの甚しきものなり。

一八九五年の布達を以て、安南東京の生産中、三十七種には百分四十、即ち四割の輸出稅を課し、其他には百分五、即ち五分の同稅を課する事とし、且つ支那より來り我港を經由する商品には百分二十、即ち二割の通關稅を課せり、之に反し緬甸に輸入せらるゝものは、其稅百分五に過ぎず、又支那への輸入稅及釐金はと顧みれば、是れ亦百分八乃至十には超えず、而して我や實に斯くの如し、蓋し我に輸入する商品に對し、植民地歲入の一分として之に課稅するは固より不可なし、然れども一大財源と爲さんが爲に、彼が如き痛激の苛稅を課するに至りては、行政の其道を愆れるも亦甚しからずや、其結果や影響の如し、彼の雲南府に於て博く賣買消費する、毛織物は、皆て佛國の得意とする所なりしも、今

は輸入其途を易え、其大部分は緬甸の獄窶よりするには至れり。英人の手に歸したるなり

斯かる收稅的檢束は植民地への輸入を阻隔し、輸出の貿易を廢絶し、本國よりの輸入を消滅し去るものなり、故に此檢束は絶對に輕減せざる可からず、蓋し一國の購買力は其生產力及販買力に應ずるものなるが故に、例へば米の如き、些少の關稅あるも、其出口を阻碍せられざるもの、一言之を蔽へば輸出の大傾向を有する生產物に對し、最輕の課稅を加ふるの外は、一般に輸出稅を全廢せざる可らず、ブルニェー氏は之を論じて曰く『輸出增加の傾向ある商品に對し課稅するは、假令相當の道理あるも、惡策の最も甚しきものなり、之が實行の結果は、百般の起業を中止し、且つ我植民地と隣國就中支那との間に行はるゝ商業的活動及貿易を廢絶せしむるものなりと。

* * *

(六)金融機關の整備　交通の便宜と、關稅の輕微とは、未だ以て商業發達の唯一なる要素と爲すに足らず、爲換の容易、銀行の設備とが、相待ちて、之を助くるに非ざれば、其繁榮は得て望む可からざるなり、然るに極東に於ける我金融機關

爲換の容易銀行の整備とは是れ亦貿易の必要條件なり

同感同感

の現狀は如何、之を英獨の大銀行に比すれば、其不十分なる同日の談に非ず、是れ之を設備完成し、他と比肩せしめざる可けんや。

(七)領事制度の改革　支那に於ける佛國貿易の發達に惠せんと欲せば、領事制度の改革は、亦其一なり、里昂發起の支那調査會報告は、佛國領事が足を支那內地に蹈込まざることを證明して餘りあり、例へば英國は十二年來重慶府に領事を置き、其領事は一年の一半は內地の旅行視察に費しつゝあり、緬甸の境界に於ても亦同一制の實行を見るなり、之に反し我佛國派遣の領事は如何、蒙自在勤の領事にして、未だ雲南府まで旅行せし者あらず、其兩間の距離幾何ぞと顧みよ、僅に是れ八日程のみ。

* * *

(八)統治の鞏固　凡そ印度支那の事業を統督するには、繼續の精神之を司配せざる可からず、然るに一八八三年東京を征服せしより茲に十七年、此間總督の更迭せし者、二十二名の多きに及べり、之れを以て我植民政策は絶えず疑惑の間に在り、憂ふ可き矛盾の裏に在り國民信任の外に在り、即ち是れ統治不鞏固

の結果に非ざる無し、故に我植民地の永福を欲せば頻繁なる總督の更迭を止めて、能ふだけ永く其地位を維持し、下に移れる屬僚政事を刷新して、名實を長官に歸一し、其他植民政策を阻碍する一切の弊害を排開せざる可からざるなり。

論者代りて我國に言ふのに似たり

＊　＊　＊

何處も同じく秋の夕暮

（九）植民學校の設立　佛國の如き大國民は著大なる創意の精神と、重要なる財政的方策より生ずる元氣とをして、外に向ひて擴大せしめざる可からず、今や柔弱にして且實際的ならざる教育は、青年を驅りて、家居を好み、鄉國に戀々たる氣風を助長すあり、此弊風を打破せんが爲に、政府は須く植民學校、即ち經濟思想誘發の學校を設立すべし、其れにして、設立せられなば、之を官僚の供給所と爲さず、之を開拓者即ち生産者の養成所たらしむ可し、今の時に當りて生存競爭奬勵の急務は、家族的安居の習其性を巾幗化せざる青年を鼓舞作興し、其れをして植民的起業の方針に向はしむるに在り、佛國將來の運命は住して彼等の掌中に在り、我佛人の事業を擧げて、之を他國人に附せざらんと欲せば其れ只だ開拓者を出せ、其れ只だ生産者を造れ。

吁我佛國充盜する所は官僚なり、兵卒なり、缺乏する所は開拓者よ！彼が如き膽勇を奮ひ彼が如き美なる植民領土を本國に贏得せしめしは、後者に非ずや、彼が如き亂暴を擅にし、彼が如き貪慾を逞くし、各種の企業を索寞に歸せしむるは、前者に非ずや、如今此美なる植民領土、大膽なる商業家及企業家の缺焉たるが爲に、本國の大損を招き、利益を脅かしつゝあるに非ずや。

第七節　印度支那に於ける鐵道公債

印度支那の鐵道は、夙に議會及一般の問題となり、一世の注目を惹ける所なるが、印度支那總督ヅーメル氏の之が設計案を具して政府に提出するに及び、忽ち設計線路の必要如何と、敷設費募集の方法如何に就き、一大議論を生じたり。其設計たる、幹線は印度支那を貫串して南部支那に達するものにして、即ち西貢と西江とを聯絡するに在り、而して之より更に三支線を分岐し、一線は西貢より下部湄公河に到り一線は順化府より中部湄公河に達し、一線は海防より雲南に通ずるに在り、更に簡易に之を言へば印度支那と支那とを連ね、其間交

趾安南及東京を利するに在りき、此設計に從へば、線路の延長は三千五百乃至四千基魯に亘り、之が敷設費は四億乃至五億法を要するものなり、而るに此壯快なる大計畫は、論難討議の後ち、終に廢棄せられたり。

是に於て更に變更案は提出せられたり、此案の目的は本線中の重要なる部分だけを、先づ敷設せんとするに限れるものなり、今ま其法案を擧ぐれば左の如し。

第一條　印度支那鐵道敷設費として二億法の公債を募集す、此公債に對し、佛國政府は年百法に就き三法二十五仙を超えざる利子を附し、七十五箇年間に償却すべきことを保證す。

年々敷設する所の線路の經費と公債利子とは、印度支那の歳計豫算に組入るゝものとす。

第二條　豫定線路は左の如し。

東京

		延長距離（基魯）	敷設費（法）
一	海防、河內、老開線	四〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇
二	河內、南定、タンホア、ヴィン線	四二〇	三二、〇〇〇、〇〇〇
三	中部安南ツーランス、順化府、クアントリー線	一九〇	二四、〇〇〇、〇〇〇
四	安南及南部交趾西貢、カンホア線	五〇〇	八〇、〇〇〇、〇〇〇
五	ランビアン高原への支線	一五〇	
	ミトーヴィンロン、カントー線	約一〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇

第三條　老開雲南線の鐵輿を得べき會社の資本に對し、佛國政府は七十五箇年間之が利子を保證す、其額は總計にて三百萬法とす。

此設計案に對しても亦批難あり、其要は此計畫に從ふも、尙ほ過大に失したり寧ろ最初は單に最も利益ある可き線路のみを敷設するに止め、計畫線路の完成に至るまでは、到る所之に竝行せる河川航路を改修し、以て鐵道に代用せしむ可しと云ふに在り、從ひて急速に利益の見込なき安南線の敷設を延期し、交趾支那線はミトーカント間に止め、同じく東京線は河內—南定間、並に海防—河內—老開間に止むることゝせり。

之に由る時はゾーメル氏の請求額は、復たび更に半減せられ、印度支那公債は少くとも八百萬法の減少を見るに至るべし。

之に反し原案贊成の說に據れば、其貧乏線と利得線とを問はず、計畫全線を敷設してこそ、始めて印度支那及南部支那の實價を保證す可けれ、悠々に分離したる敷設の允可は、偶以て急務にして價値ありと認められたる線路以外の敷設を、期し難からしむるものなりと。

「ジュールナル・デ・デバ」の評論は最も其當を得たり、曰く『世人は未必の債權者を保護するに勉め、印度支那をして公債を募集し得ざらしむ、是れ多き理由なきにしも非ずと雖も、吾人は寧ろ之を悲む、何となれば、斯る起債は、植民地の信用を起す乎廢れしむる乎の機會なればなり』と。

但だ吾輩は應に言ふべし、此鐵道敷設の目的をして然く利得を先きにするに在らしめは、其線路には、當に經濟的利益のみならず、政策的利益をも相伴はしめざる可からず。

是れより特別會社が敷設せんとする、河內—老開間の線路に就き、少しく述ぶる所あらんと欲す、本線路たる即ち雲南府までの延長線にして、南部支那への進入路たるものなり、故に之が敷設は、重要中の重要、急務中の急務なり、假令如何なる減線論あるも實行せざる可からざるなり。

顧るに雲南に對する世論は、近來慥に一變したり、蓋し東京征服當時の想像には、雲南は即ち支那全國にして、老開の後方には、人口四億の大市場ありと、然るに黑旗との戰爭、支那政府との葛藤、季節に由り紅河航行の困難及雲南其のもの實體の講明等に由り、空想の夢破れ、雲南は支那帝國中邊境の一省にして、人口も亦他の諸省に比し、僅少なることを會得するに至りたり、是に於て乎世人

の希望も亦著しき減却を見るなり。

然りと雖も「ル・タム」が論ぜしが如く、東京にして一朝極東に於ける最美なる分野の一となり、重要なる市場の一となるに至りなば、雲南は東京の輔車たる可し、惟ふに將來東京の靜謐益〻其度を高め、支那との友誼愈〻其厚を加へなば、天下の注目は此輔車に四集す可し、人々善く此雲南を察せよ、吾人が採掘の特權を得たる豐富の鑛山を外にするも、此に住する九百萬の人民は、亦我顧客に非ずと謂ふ可からず、豈輕蔑することを得んや、故に速に雲南府―老開―河內間の鐵道を敷設し、彼我貿易の倉庫たる海防と、支那南省との直接なる關係を、一日も早く定立せざる可からざるなり、人若し英國が緬甸路より南部支那へ進入の計畫を彼が如く拋棄せざるを視なば、誰か我事業に疑を容るゝ者あらんや。「ル・タム」の論に曰く『本計畫は少くも輿論の問題たる可き價値あり、吾人が他方に於て受けたる失敗の間に立ちて、此問題の研究は真に我心を慰むるものあり、何となれば此事件たる交通の便に藉して、新疆を開放し、商業を奬勵し、工業を隆盛ならしむる、適當の基礎たる可く、植民地擴大の一大原因たればなり』と。

幸にして上流の政事社會に於て、印度支那の爲に必要の資本をも投じ、有用の土工をも擧げ、以て我植民地をして價値を有せしむるの重要なるを會得すあり、終に植民大臣の提案となり、ラッサン氏の報告となり、一八九八年十二月十五日下院に於て同二十四日上院に於て之を採用するには至れり。

本案たる、總督ヅーメル氏の前提案に左の修正を加へたるものとす、

印度支那線は專ら印度支那の豫算に由りて保證せられたる資本を以て建設するものとす、老開雲南府間の線路に關しては、總督の發案を採用し、佛國政府は七十五箇年間に三百萬法の額まで、之が保證を與ふべし。

是れ一方に於ては著名なる經濟學者が稱道する所謂植民公債創立を期し、他方に於ては支那大陸へ進入の都助たる資本の安全を保するものなり。

不幸にして下院は此印度支那鐵道問題上、直ちに妨碍たる可き、左の追加提案を採用せり、

一　起業の契約は、議會の認可を經ざる可からず。

二　雲南鐵道に關し、政府及特別會社間に締結する契約の是認は、法律を以

てすへし。

是れ即ち終局し難き議論を湧出せしむるものなり、但し吾輩は總督ゾーメル氏が自己の設計を遂行するに、十分なる勢力を有するを慶するなり、外交及植民問題が論ぜし如く、必然好結果を得べき要件を研究し、政府をして其件調査の價値を自覺せしめ、大臣をして之を下院に提出せしめ、幷して之を維持せしめ、下院及上院をして承認せしむるの途を講ず可きなり。

然も世人の目睹するが如く、之に對する議會の事業は前途尚ほ遼遠に屬せり。既にして印度支那公債の募集となりたるに、其應募額は三十六倍の多きに達せり、是れ取りも直さず、植民公債の勝利なり、何となれば本公債たる、當初一般疑懼の際に現はれたるものなればなり、又其成功は我植民地の將來に對する一の保證となり、今後此植民地に要する資本は、復た本國が之を供給し得べき希望を繫がしめ、同時に英獨人が今日彼か如き勢力を有するに至りたる企業的精神を國人に喚起せしめたればなり、是に至りて印度支那總督に待つものの太だ多し、本國は既に公債募集の必要不可已を認めて、之を充たしたれば、是れより以往は、嚴正なる財政の管理と熱心なる工事の奮勵とを示し、以て總督の計畫事業に對する一般の信任に答へざる可からず、是れ寔にゾーメル氏其人の任務なり。

惟ふに此計畫線たる、一面には貿易の擴大に資し、一面には天然なる豐饒地方の眞價の發展を助く可し、我植民地に於ける農商業の發達と繁榮とは、繫りて此鐵道線に在りといふ、亦敢て過言にあらじ。

海防―河内―老開線　にして成らば、一には山來紅河の航路中エンバイの上に於て困難を極めつゝある航行の不便を避くるを得べし、二には雲南と東京諸港との貿易を一層敏活ならしむ可く、是れ畢竟中央支那への進入上導火口と稱すべし。

河内―ヴィン線　は人口稠密の地方を横斷するが故に、其收入も亦確乎たり。

ツーランヌー―順化―カントリー線　は安南の首府順化とツーランヌの良港とを聯接するものなり、此地方は豐饒にして、茶の栽培に富み、人口の比例も亦尠なからず、殊にカントリー地方は頗る稠密なり。

西貢―クアンホア線は夙に植民の爲に開かれたる殷富の地方なり、此地方は業に已に幾多佛人の工場を有せり。

ランビヤンの高原は氣候温和にして、最も健康に適するを以て、夙に衛生設置の議あり、但だ此高原を横斷する百五十基魯の支線路たる、愉快なる高原に進入するまでには、無數の森林を通過せざる可らず、故に之を人道上より觀れば、喜ぶ可き線路たるも、商業上より察すれば、利益少なき軌道ならん、其敷設の實行せらる可きや否やは、恐らく是れ疑ならん。

ミドー―ヴィンロン―カントー線は到る處水路の便ある地方なれば、其の果して敷設に至る可きやは、前線に比し更に一層の疑問ならん。

終りに注意す可きは、印度支那の財政が有望の地位に進み來りしこと是れなり、一八九六年までは、安南及東京の豫算は屢、缺乏を告げたりしが、一八九七年に至り、會計年度中二百四十五萬七千法の剩餘を得、一八九八年には一層の好況を呈し、同年九月までに早く約三百萬法の剩餘を生ぜり、是に由りて之を察すれば、收入不足の時代は、黑旗殄滅と同時代に經過したるものと見えたり、而

佛國の雲南經營は之に由りて漸く現實なる注意を可ならんやなるべきや

して收入の點に關しては、東京よりも常に慶幸なる交趾支那は、九十八年中前者と同時期には四百萬法以上の超過を示したり、（以上「外國及植民地時報」中セルヴィニーの所說）是れ此財源を觀なば、亦以て植民公債の危險ならざるを認むるに足らん。

* * *

豫算委員會の意見ありしにも干はらず、國家は老開―雲南線の允可に對し、保證を與へたり、此舉や太だ慶す可し、是れ實に國民的事業なればなり、此線敷設費は約七千萬法に上る可し且つ其開業の初には利益も亦多からじ、然れども雲南鑛山の價値は之に由りて保證せられ、將來十分の收益を期するを得べし、加之此線に關し特記す可きは政策的利益の之に繫れるに在り、何となれば南部支那への進入路、之に由りて其端を開き、廣東府及緬甸に爭赴する貿易の產物は、首を回らして我植民地に向ひ來るの好望之に繫れればなり。

但だ夫れ此際英人は緬甸に於て、暹羅人は湄南河上流に於て、日に其事業を成就しつゝあり、之を眼前に有する我佛人は、決して遲疑す可き時に非ず。

ヤンダレー―崑崙線は既に敷設せられ、尙ほ此線を雲南省內の順寧府を經

て大理府まで延長するの計畫も亦熟しつゝあるに非ずや、但し此間には山河の障碍極めて多し、其工事が爲に幾年か遲延せらるゝことは、或はこれあらん、然れども緬甸と支那とを聯絡せしめんが爲に、英人が他日其費用の支出を惜まざる可きは、今より以て期待す可し、若し夫れ崑崙の線路、大理府及雲南府に達するの日、佛國萬一雲南の中心に到るの道を有する無からん乎、南部支那に於ける一切の利益は彼の横奪する所とならんのみ。

又他の一面に於ては暹羅人は湄南河及湄公河間の上流方域を經過して、暹羅の盤谷府と雲南省の思茅とを聯接す可き鐵道の敷設を計畫しつゝあり。

之を要するに、佛國は既に已に支那政府より雲南鐵道の敷設權を得たるが故に、今日の急務は、能ふだけ速に其企業に著手するに在り、然らば此雲南の內地に、第一に達する所の者は、他人に非ずして、佛人ならん抑、我雲南線路たる、最短にして最夷なり、加之我接觸する方面の地味、人口は、最饒にして最稠に、無數の鑛山は其採掘亦極めて容易なるあり、況や其氣候も亦温和にして、歐人に最も順適せるに於けるをや。

寔に然り

暹羅人も亦隅に置けず

天民なるの先者あり絶企業家の發大始めて可き物有り成し始めすべく人の缺點に至り久し此間に就て可て可て爲を捲ひ登り

急げ『英人は緬甸鐵道に藉し、疾驅して雲南に進みつゝあり、佛人の先鞭を著くるは、實に此時に在り、吾人にして若し此機を逸せん乎此富饒なる植民地を、佛國に寄贈せんが爲に、二十年來費したる勢力と犧牲との結果を擧げて、一朝地に委せんのみ』「外交及植民問題」中ウチッサン氏記する所の「印度支那及緬甸鐵道論」中の一節

山來植民地にして發達の運命を有すること、未だ東京の如きものあらず、當時大勢に逆ぜざる無政策者輩が激しく攻擊したるシェール・フェリーの事業は、今に至り赫灼として光輝あり、是れ此一事以てフェリーの名を不朽ならしむるに足れり、而して一時彼が如く攻擊の目的となりたる此國士が晩年衷心よりの尊崇を受けたるものは、君が將來の大勢を察する達觀の明識と不撓の性格との信孚せしに由りてなり、正義は人を欺かず、是れ史の一大例證に非ずや、可當年東京の役は辛酸を嘗め、困厄を冒して、我極東の新領土を無限に擴張することを許し、吾人にして爲さんと欲すれば、一朝工業上の一勁敵となり、英領印度の面前に佛領印度を屹立することを聽したるには非ずや。

第八節　佛國の植民政策及英獨との政策比較

志士滿腔の悲憤

若し吾人にして我植民地域の廣袤を觀察する時は、我國擴大の活潑なるに滿足する所あらん、然も視て征服の結果として、收得したる部分に至れば、不快の念坐ろに横生し、抑えんと欲するも能はざるものあり、即ち我印度支那の經濟的地位を執りて、英領植民地の驚く可き發達と、最近に收めたる獨逸領土の有望なる活機とに比看せよ、勢力を費す實に非常にして効果の纖細なるは更にこれより甚しきものあり。

精細の注意を以て我競爭者が執りたる手段を講究せん乎『吾人は吾人が前後相接せし失敗の原因と幷同一の地方に於て我植民事業は索寞として生産少なく、他は則ち之に反し効果を收めたる所以とを發見するとを得へきなり』（ラチッサン氏の言）久しく植民的企圖に反對したる佛國政府は、頭上に一痛擊を被りしと見え、一朝豹變、倉皇として擴張政策に移りたり。

蓋し政府は報復に熱狂したる國民の感情に應ずるの策を執りたるものなるも可しと雖も、輿論の爲に頓動せられて、之を慰撫するの方法を知らざりし譏を免るゝ能はず、即ち政府は中庸の度外に突出し、之に對し國民の精神習慣及性

輿論

讀みて此に至れば亦我征清感なき能はず

格の未だ十分準備せられざる過大の事業に向ひ本國の勢力及資本を傾注せしめたるものと謂はざる可からず、凡て一國民の商工業の發達に對し、親密に結合せられざる綱領（プログラム）の感念を直ちに感受する者何處にか在るや。

若し活潑にして智識ある開拓者の工場を盛にし商館を起す無く、又商船の重權を貿易上に握る無くば、植民地なる者は、母國に對し利益を與ふるものに非ず、而るに事業繼續の精神を與ふ可き商業上の必要は、未だ曾て我遠征の擧に伴はず、佛國の植民地を領有せしは、寧ろ偶然と謂ふ可きのみ、即ち遠征の軍を發したる原由如何と顧みれば、宣教師の保護に非ざれば、則ち國民の虐殺に對する報復の擧のみ、極東に於ける何の方面を回看するも、明かに此目的の痕跡を印せざるはあらず、乃ち一八五九年の支那遠征、乃ち一八六一年の西貢征服倶に宣教師保護の爲なりといふに外ならず、ラッサン氏之を痛論して曰く、

『極東に於ける我國の運動は、吾人の商業工業及航海業に惠す可き諸點に起らずして、何時も兵力干渉の已むを得ざるに因せずばあらず、吾人がッーランヌに、西貢に、海防に、河内に赴きしは、商工家としてに非ず、征服者として入

英國の盛大を致すもの所以は主として此に在り可し英國の本國務は此の日本に在り

りたるのみ、一八八四年よりして、一八九一年に至るまで六箇年に亘り、軍事運動に費したる金は都合五億法の巨額に達せり、然も此中に就き道路の建設、港川の改修等、一言以て之を蔽へば、本國商工業の利益の爲に、若くは植民地新舊住民の利益の爲には、一小部分だも費したるもの非す』と。

＊　＊　＊

英國の植民政策は全く之に異なり、個人の資本は先づ動きて、而る後ち其利益の爲に政府を牽引し來るなり、即ち其本國生産の殷富は、國人を驅り、日として數多の移住者を英國の土地より出發せしめざるはわらず、是等の移住者たる、群を爲して吐口を搜索し、重要なる地點を發見して此に據り、以て生業に從事するが故に、其活動は直ちに本國の商業を利し、輸出從ひて擴播し、皆富源の增大を助け來る、此間政府は輕々に遠征の擧に出でず、而も其國民の保護上已むを可からざるを見る時は、彼が利己的精神と愛國的自尊に問ひ、亦常て其擧を辭せず、故に其擧は一出して輸出吐口の侵略及植民焦點の創立に歸せざるは稀なり。

政軍家のたるものは宜くこの神を書すべし

英國の稽古場の歷史として指掌の如し

是故に英國に於ける植民的擴大なる問題は何時も商業的及工業的に解釋せられ、能ふだけ經濟の意味に解決せらるゝを常とせり。

其れ然り、故に英國政府にして人と財とを犧牲にするの擧に出づるの時は、即ち其効果を十分に打算したるの時なり、自國商工業者の爲に顧客華主を收むる可き唯一の日算成りたるの時なり、ラッサン氏は之を評して曰く『此植民政策たる壯大なる行動をも意味せざれば、高尙なる哲理をも含まず、然も其進行や確實なり、何となれば英國の輿論は常に利益の打算に出でざるもの無ければなり』と。

道義の如何は、英國の多く經意する所に非ず、彼が不撓の搜索は、只だ自己の利益に在り、故に苟も之に會へば、禮儀を問はず、人權を顧みず、取りて以て聚積せざるはわらず、斯の如くにして英國は經濟上に政策上に、宇內無比なる好地位を創造せり、惟ふに上下一致の感念は、善く彼國民を結合せり、彼が成功は皆此力より發出し來らざるは無し、英國植民の歷史は全く斯くの如きのみ。請ふ看よ明日の事業は昨日の再演なり。

佛教の聖地たる補陀落山の島亦勝のアルビロンの有名なるを欺んすと

英國が支那に於て百計行はるるも此にのみは在り

自國航海者の保護としては、麻剌加海峽には新嘉坡を占め、西江口頭には香港を領し、以て船舶の錨泊に便じ、且つ其船舶に食せしめんが爲には、各埠に貯炭所を設けざるはあらず、惟ふに上海及揚子江流域一帶に於ける英國商業の必要として、彼れ外務省（フオーレン、オツフイス）が舟山列島の一を要求する、亦遠きに非ざる可し、若し夫れ威海衛の占領に至りては、直隸滿洲及朝鮮との英國海上貿易に資する、一の庇蔭地を確保せしものなり。

新嘉坡及香港に於ける英國の建造は、一等商業國たるの施設なり、同時に支那政府に對し、英國の外交政策をして、何時も強硬的談判の開始を許さしむる、示威的地歩の確保に非ざる無し。

英國は支那海南部の領有を確保せんが爲には、香港のヴィクトリヤを以て軍事上喫緊の地と爲せり、乃ち知る可し、同海北部の海權を收得せんが爲に、威海衛を以て有力なる軍港と爲すに必らず躊躇せざる可きことを。

英國の政策や簡單なり只だ其實行や畏る可し。

顧みて我佛國を視よ、常に英國より輕侮を蒙り、殊に近時の外交談判には、無限の屈辱を受けたり、然れども吾人は決して吾人の品位に負ひたる金創を忘るゝ者ならんや、彼の表に僞善の假面を蒙りて、裏に譎詐の政策を藏し、承認す可からざる權利を己に收めんとする一強に向ひ、佛國は斷じて反對せざる可からず、彼にして若し勝利を衒ひ、自ら以て快と爲すあらば、吾人は再たび吾人の元氣を喚起する所あらんとす。

勇士は元を失ふを忘れず、士は國に志を忘れず、報ずるを忘れず

亦局嘆

吾人は應に自自すべし、吾人の植民事業は常に倒行逆施の間に在りき、即ち或は事の當に終るべき時に、之を始め、或は收利の必要を外にし、單だ名譽を得るに勉め、無益の巨費を耗せし等、實に一再のみならざりしことを、畢竟我佛國には彼、英國の如く、政府の從ひて進むべき道途を開示する冒險的膽氣を缺けり、時には大膽なる開拓者なきにもあらざれど、其數多からず、況や植民地政廳が幾ど常に之を帮助せざるに於てをや。

然りと雖も他國の執る所、彼が如く頑强なる以上は、我國も亦現狀を一變せざる可からず。

植民地に對する本國の財政的事業にして、宜きを得ば、植民地の官僚も亦安ん

じて事を執り、大膽任ず可きの職員を輩出するに至る可し、何となれは計畫の事業にして擴大すれば、之に從事する彼等の冒險的意氣も、進取的智力も、亦長大す可ければなり我國著名の冒險者中には屢〻說を爲す者あり、曰く、佛國植民地に於て商業に從事せんよりは、寧ろ英國植民地に於て之に從事するの優れるに如かずと、斯の如き說の社會に信用せらるゝ間は、吾人以て爲すと無きなり、吾人は銳意して、斯る說の因りて出づる原因を排除せざる可からざるなり。

植民の擴張上英佛兩國が採用する手段の異同を外にして、佛國植民地の大且富に如かず、故に吾人は一層之が開拓に努力せざる可からざるなり。

佛國は何が故に獨逸の例に倣はざる、獨逸の艦隊が國旗を膠州に樹つるや否や、獨逸の商業家は早く既に此に四集せるには非ずや、チントン及濟南府間鐵道の踏査は既に卒り、今や之が著手の準備に汲々たり、惟ふに山東省に於ける經濟的經營は、數年を出でずして、大活動を見るに至る可し。

今ま其れ之を捕り來りて、吾人の事業に對照せよ、今日無量なる東京の富を公認するに至るまでに、吾人は十五箇年を費し、亞爾塞（アルセイヤ）の經營は四十箇年に及べるも、其商工業の發達は未だ、十分ならざるに非すや。

是れ非ふ可からざる實驗說

以上歷論したる者を概言せん乎、吾人は吾人の血誠を佛國勢力の擴大に傾注す可し、我領土の事業の經營を片時も緩巻するとを聽さず、然りと雖も只だ徒らに土地幅員の廓弘を求めんとすること勿れ、是れ偶〻本國の疲弊困憊を誘起するものなり、白耳義は他人の怨恨をも挑發せず、靜かに廣大の邦土を經營するの方法を吾人に敎へ、英獨兩國は本國と植民地との經濟的連鎖なるものは、即ち商船なることを吾人に示せり、此英獨の實驗に資り、更に進みて之を言へば、海外貿易は即ち亦兩間の無形的連鎖なりと謂ふ可し。

此に一の國民あらん、其生產は外人に藉りて運輸せられ、其管下なる土人の目睹する所は、專橫亂暴を極むる官吏輩と、讒謗誹譏を逞くする競爭者のみなりとせば、則ち如何、其國民は何處に其勢力を有するを得んや。

一八九七年一月一日の列强船舶表

國名	帆船噸數	汽船噸數	船隻總計	噸數總計
英吉利	二、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇 噸	八、五〇〇	大、三〇〇、〇〇〇 噸	二〇、五〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇 噸

英領植民地	一三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三、三〇〇	五〇〇、〇〇〇	一五、三〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
獨逸	二、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	九〇〇、〇〇〇	三、六〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
佛蘭西	一四、三〇〇	四〇〇、〇〇〇	一、二〇〇	五〇〇、〇〇〇	一五、五〇〇	九〇〇、〇〇〇
北米合衆國	一六、三〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	六、六〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	二三、九〇〇	四、七〇〇、〇〇〇
露西亜	三、九〇〇	—	九五〇	—	四、四五〇	五八〇、〇〇〇
伊太利	六、二〇〇	五五〇、〇〇〇	三五〇	二五〇、〇〇〇	六、五五〇	八〇〇、〇〇〇

列國輸出入價額表

	輸入	輸出
英吉利	一二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇法	八、七五〇、〇〇〇、〇〇〇法
獨逸	六、二五〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西	三、七五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二六〇、〇〇〇、〇〇〇
北米合衆國	三、七五〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
露西亜	七五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一二五、〇〇〇、〇〇〇
伊太利	八五〇、〇〇〇、〇〇〇	六二五、〇〇〇、〇〇〇

一八九七年の列國主要品貿易價額表

英吉利	一八、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇法
獨逸	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
北米合衆國	八、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
和蘭	六、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
露西亜	三、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
白耳義	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
伊太利	二、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇

抑ゝ我商船の零落は、我貿易の減退を誘致せし者尠なしとせず、一八九九年の商務擔當豫算委員チェリー氏が報告に曰く『我佛國の商船は英獨兩國の商船の如く、進みて外國船と外國の港灣に於て競爭する能ざるのみならず、退きて自國の諸港に於てまで、受太刀となり、辛うじて運賃を爭ふの情態には陷れり』と。

海國民たる者は宜しく脅々服すべし

之を證明するは頗る繁冗なれば、姑く之を擱くも、「外交及植民問題」が報する所の調査に據れば、我佛國商品の四分三は外國商船に由りて海外の地に輸出せられつゝあり、之に拂ふ運賃は、實に驚く可き巨額に上れり。

チェリー氏は又曰く『商船の零落は實に我國の大不幸なり、何となれば商船は千態萬狀なる國民的活動の連鎖なり、其商船にして零落するは、即ち其國の衰退なればなり』と。

氏は尙ほ之を推論し佛國海軍の問題に就き概論する所あり、是れ其海軍の運命如何は、商船の盛衰と密切の關係を有するに由りてなり。

植民領土の經營に就き、之が要件を詮衡し來れば、海軍と商船とは實に終結の要件たり、看よや人口の割合に比し、其商業の驚く可き發達を示したる和蘭は、之が彰々たる適例には非ずや。

經濟的問題に關する是等の數多なる希望中に、尙ほ一の附加す可きものあり、我佛國に於ける人口增殖の希望即ち是れなり。

我佛國の人口は多く增加せず、之に反して彼岸の英國を看よ、其人口は年々歲々增加繁殖して、國內に剩餘し、剩餘の民は團々擁々として、國を去り海を超え、或は亞米利加に、或は阿弗利加に、或は支那の沿岸に、到る處事業者の團結を作り、以て世界に漲溢しつゝあり、此開拓者團結の主たる利益は如何と顧みれば、彼等が絕えず母國と企つる商業上の關係に在り。

此佛人生出減少の原因に就き、之を道德的理由に歸するの外、吾人は別に自由安逸の生涯に偏傾し過ぎたる熱愛と、事業の停滯を生じたる行政の狀態との二者に就き、此危險なる最重の原因を尋ぬ可からざる歟。

新註　佛國人口の繁殖せざる、其原因數多ありと雖も、中に就き個人主義の弊毒深く人々の心裏に浸入し、能ふだけ自個の快樂を求むるものは其一なり、移住植民の事業未だ弘く習慣に入らず、從ひて必要が未だ繁殖を促がすに至らざるも亦其一なり、而して其移住植民の習慣の未だ大に起らざるは、則ち植民政策の舛錯及植民行政の停滯に因するもの多し、著者の意蓋し之を言はんと欲するなり。

植民的擴大自然の結果として伴ふものは事業の增加に在り、故に此事業の增

海國民たる者は宜しく益々奮勵すべし

之を證明するは頗る繁冗なれば、姑く之を擱くも「外交及植民問題」が報する所の調査に據れば、我佛國商品の四分三は外國商船に由りて海外の地に輸出せられつゝあり、之に拂ふ運賃は實に驚く可き巨額に上れり。

チェリー氏は又曰く『商船の零落は實に我國の大不幸なり、何となれば商船は千態萬狀なる國民的活動の運鎖なり、其商船にして零落するは、即ち其國の衰退なればなり』と。

氏は尙ほ之を推論し、佛國海軍の問題に就き慨論する所あり、是れ其海軍の運命如何は商船の盛衰と密切の關係を有するに由りてなり。

植民領土の經營に就き、之が要件を詮衡し來れば、海軍と商船とは、實に終結の要件たり、看よや人口の割合に比し、其商業の驚く可き發達を示したる和蘭は、之が彰々たる適例には非ずや。

經濟的問題に關する是等の數多なる希望中に、尙ほ一の附加す可きものあり、我佛國に於ける人口增殖の希望即ち是れなり。

我佛國の人口は多く增加せず、之に反して彼岸の英國を看よ、其人口は年々歲々增加繁殖して、國內に剩餘し、剩餘の民は團々擁々として、國を去り海を超え、或は亞米利加に、或は阿弗利加に、或は支那の沿岸に、到る處事業者の團結を作り、以て世界に漲溢しつゝあり、此開拓者團結の主たる利益は如何と顧みれば、彼等が絕えず母國と企つる商業上の關係に在り。

此佛人生出減少の原因に就き、之を道德的理由に歸するの外、吾人は別に自由安逸の生涯に偏傾し過ぎたる熱愛と、事業の停滯を生じたる行政の狀態との二者に就き、此危險なる最重の原因を尋ぬ可からざる歟。

新註　佛國人口の繁殖せざる、其原因數多ありと雖も、中に就き個人主義の弊毒深く人々の心裏に浸入し、能ふだけ自個の快樂を求むるものは其一なり、移住植民の事業未だ弘く習慣に入らず、從ひて必要が未だ繁殖を促がすに至らざるも亦其一なり、而して其移住植民の習慣の未だ大に起らざるは則ち植民政策の舛錯及植民行政の停滯に因するもの多し、著者の意蓋し之を言はんと欲するなり。

植民的擴大自然の結果として伴ふものは事業の增加に在り、故に此事業の增

加如何こそ、吾人の宜く最も注意すべき所なれ、然るに動もすれば則ち植民地を評價するに、單だ全體の統計を以てし、即ち所謂百萬(ミリオン)、掛定を以てし、植民地を基として創設する所の事業、即ち鐵道敷設及農鑛經營等を置きて省みざるの癖あり、若し其植民地に於ける諸港の貿易額、資本家に歸納する投資の利子、國庫に收入する通關の稅金等を集集し、統計表を製しなば、如何にも我植民地の多くは、遙に豫算上の記載に超過したる巨額の歲入あるに喫驚す可し、而も徒らに其數字のみを喜ばゞ、其額は每年減少し、終に消滅に歸するの時あらんも、亦未だ知る可からず。

其好適例は亞爾塞(アルザス)に在り、此植民地より國庫に入る所の金額は、尙ほ未だ千七百萬法に過ぎざるも、其商業上の活動額は五億法に達するあり、中に就きて四億法は母國との貿易額たり、是れ比較的に資本より成れる佛人企業の集積して此繁榮とはなりたるなり、然るに國家は之に對し大に租稅を賦課す、爲に其商業は自然障碍を被れり。

故に植民地よりの微收金を以て本國の歲計を助けんとするが如き陳腐の觀

好適植民主義の實例

念は最早滅却せざる可からず、西班牙は則ち之に由りて亞米利加の領土を涸渴せしめ、且つ不正と殘虐とに由りて、其領土を背叛せしめたり『母國は決して植民地の納稅者を甚微せしめ以て本國の富實を計る可からず、本國の望み且つ求む可き所は唯だ其植民地をして吐口たらしむるに在り、其れをして個人の利益を惠し、海外の領土として國民的繁榮を助長するの一源とならしむるにあり』(佛國下院の代議士モーリス・オルヴァール氏が「一八九九年の豫算」中の一節)

今や佛國は漸く正路に入來れり、從來の反動の應に近きに起るべきも、亦爭ふ可からず、國內には最早植民反對論者なしいふも不可なけん、其れ然り、事業は既に熟したり、是れより只だ其成果の收穫に勉むるあらんのみ『征服時代より、由でゝ經營時代に入りたる我海外の領土に於ては、一切の準備既に成り、今は飛躍の機を待てり、曰く軍隊、曰く旅行者、曰く商業家、是等の前衞が後ろには植民地資本家の徐々として進行し來るあり、前代未聞の大計畫は各地に勃興し、其後ちには大有力なる大資本家を有するには至りたり』(モーリス・オルヴァール氏)

是れ此海外領土の經營には、如何なる種類の人物か最も之に適す可きや、青年

青年なる哉青年なる哉政府は宜く之を保護し脚を其地に立てしむ可し漠たる廣土は彼等の智識と彼等の活動に向ひて開かれたり顧ふに我佛人家族の父兄は業に已に植民地の價値を認め、又之と通商の容易を會したれば、子弟の此に從事するに於て、亦其未來を憂慮せざる可し、是れ佛國危急の失權病を醫するの良藥ならん、何となれば『一國民の繁榮と崇大とは、主として人口上の多數と、經濟上の勢力に基因し、又其智識上の修養と、其歴史習慣に職由するものなれば、なり』トルンモン氏の説

（原註）歐洲列強の生出人口超過表

佛蘭西	五四、〇〇〇
白耳義	六五、〇〇〇
和蘭	三二〇、〇〇〇
伊太利	四二〇、〇〇〇
墺匈	四三五、〇〇〇
英吉利	六六〇、〇〇〇
獨逸	一、〇〇〇、〇〇〇

第九節　強大なる海軍の必要

是に於て乎強大の海軍を要す

凡そ一國の植民的擴大に要する所のものは曰く人民の勇健なり、曰く企業の精神なり、曰く富贍なる商業及工業なり、曰く繁榮なる商船なり、曰く政事家の機敏堅忍及一致なり、而して之に附帶して必要缺く可からざるものは、曰く強大なる艦隊の組織即ち是れなり。

請ふ近數年雙々竝進せし、英國海軍の擴大と、獨逸艦隊の建造とを視よ、一は大英領土の絶大なる發達を促がし、一は獨逸植民邦の空前なる創立を伴ひたるには非ずや、ファショダの事件は海内の迷想を打破するに餘りあり、若し夫れ佛國が強大の海軍國に對し、若くは畏る可き、某々同盟に向ひ、返還請求の擧を企てんと欲するあらば、之が請求に資す可きものは則ち何ぞや。

ファショダ遠征の擧を會せし者は、應に宏思を發せしなるべし、佛領蘇丹(スダン)及ッペンギーに於けるナイル河上の一港は、今日まで膨大なる探檢者以外には、未だ嘗て經過したる者なき此曠漠なる地方に向ひ、未來の一吐口なりしに非ずや、

彼我の交誼は温かに、我勢力は慥められたる一王國には手を與へ、サン・ルイとチブーチー間との關係は、實際に定む可かりしなり、而してファショダの問題に我實に一注を輸したり、又歐洲國民の注視する印度及極東への要路たる蘇士運河は則ち如何、是れ佛國の技能と資本との貢献せし事業に非ずや、而して其運河も亦英國の特別なる所有となり了れり。

斯くの如き正當にして壯大なる希望には、堅確なる兵力と外交との準備を要す、而して佛國の爲す所は則ち如何、佛國がファショダに送遣せし所の兵は、僅々一百五十に過ぎずして、英國の經營せし事業は、二十五年を費せり、今ま夫れ二十五年を費して經營せし所の事業を勇士の一拳（マルシャン大尉以下百五十の佛兵かいふ）の爲に委棄す可しと想像する者あらば、是れ兒童の見なるのみ。

埃及領蘇丹の征服は、英國の商工業に對しては、死活の問題なり、大英國の舊植民地に於ては、其生産大に繁榮し、母國製造品の輸入をして、甚だ困難ならしむるに至れり、是を以て英國の政事家は夙に本國の事業停滞に憂慮する所あり、而して工場の閉鎖、職工の恐慌は、相踵ぎて起り、爲に新吐口を創開するの已むか

からざる事情には逼れり、是に於て英國は起ちて、四方を望みしに、足趾未到にして、事情未知、人民未開にして、山野未墾の地、即ち外國の競敵未だ見はれざるの地唯だ一あり、阿弗利加の大陸は即ち是なりき、是れ英國をして此に進入し、征服に從事せしめたる所以なり、延長一萬基魯米突の大鐵道を以て、亞歷山得利亞港と喜望岬とを聯接せんとの計畫は、一八八〇年の比ほひより、業に已に英國の胸中に發し、ナイル河の地方より、南阿の一帶に至るまで、早く之が探究に從事しにき、如何に纖纖の精神と堅忍とを以て、我隣國が絶大の計畫に從事せるかを證見す可きに非ずや。

佛國が埃及よりナイル上流地方に進入せしは、一八八二年以來とす、爾後此地方に著大の利益を有せしに關はらず、兵力を以て之を保護するの擧に出でざりき、意は英國をして己の例に倣はしむるに在りしや疑なし、此擧たる正平は則ち正平なり、然も其正平は深秘の希望を惹す可き正平たれば、英國豈之に倣はんや、啻に之に倣はざるのみならず、反動は時を移さずして來れり、英國は乃ち他年一日ナイル河地方より佛國の撤退を要求せんことを期し、此頃はひよ

り其野心を維持するに必要の進爲を開始せり、乃ち見る可し、英國海軍の擴張は實に一八八二年より紀元し、英埃混成陸軍の組織及增員も亦之と並行せしことを。

吁、マルシャンが一百五十のセポガル兵を以て、將軍キッシュナルが軍の進路をファシ[illegible]ダに欄阻したるの日、佛國の爲さゝる可からざる未來は、早く豫見す可かりしに非ずや。

是故に、吾人の所志を達せんと欲せば、之に應ずるの準備を理めざる可からず、之に就き同盟の政策、外交の撓縱、固より必要なるも、之を容易ならしむるに最も有効にして、不可缺なる手段は、主として、強大なる海軍の組織に在り、世界の崇敬を惹き、情誼の關係を維持し、返還の請求に資し、貿易、商船及外交官を助け、並國旗の退却を防ぐは、即ち強大なる艦隊の力なり。

*　*　*

茲に英、佛、獨三國に於ける海軍勢力の比較研究を試むる可し。

一八八二年に於ける英國海軍の總計は、略、佛國と同一なりしが、此時代より英國海軍本部は計畫を建て、其軍艦を一新し、佛國と其他の一強海軍國との聯合艦隊を敵とし、之を制するに足る實力を備へんと期し、爾後海軍豫算增加の度を止めず。

一八八五―八六年度の英國海軍豫算額は、二億五千八百萬法なりしが、一八九〇―九一年度の豫算額は三億六千四萬法に上れり。

爾後植民計畫の愈益廣大に亘るあり、即ち南に於ては埃及問題、阿弗利加分割あり、東に於ては支那經營あり、英國の地位は從ひて危險を加ふ、是に於て一層海軍擴張の必要を感じ、僅々六箇年間に其海軍を三倍せり、即ち一八九八―九九年度の豫算は六億法の巨額に達せり。

抑、佛國との國誼復舊は、未だ以て英國海軍擴張の步武を停むるものにあらず、彼の目的は啻に我佛國に對し海上の重權を制するのみならず、之を議員及政府員の意見に徵するに、遠からず其海軍力をして數強海國聯合の海軍力に匹敵せしむるに至りて、滿足せんと欲するものなり、人は現に今年度の豫算六億法にすら瞠目せり、而るに明年度即ち一八九九―九〇年度の豫算は六億六千

英國艦隊の威力なるものは以倫敦主として在りとの思ひにさはるやうに思はれる

五百萬法にまで達せんとす。

驚く可き繼續の精神は海軍擴張軍艦製造をも亦司配しつゝあり、現に同一人にして之が統督に任する者の二十年に亘れるの一事に視ても亦徵す可し。

其製艦の方式は常に前例に倣ひ、其間隨意に外國の意匠殊に主として佛國の意匠を採り、改善の擧に怠らずと雖も、一定の英國的方式に改變を加ふること甚だ稀なり、英國艦隊の一樣を致す所以のもの此に在り、海戰の際進退の一致と勢力の强大との原因實に此に在り、因みに一言せんと欲するは、英人の愛國的用意なり、佛國海軍に起すが如く、英國海軍に於ても同一の失策及禍災を起す太た頻々たり、而も英人は外に向ひて之を發露せざること即ち是なり。

英國海軍豫算六億法中二億法は新艦の建造費なり、斯くの如き有樣なるが故に、海軍本部は平素より新艦建設の爲に、廣大なる工業上の設備を有せり、即ち其國內には大噸數の甲鐵戰鬪艦を建造す可き大造船所十三箇所、之に次ぐ可き造船所二十八箇所あり、之に對し佛國に於ては大なるもの一箇所、其次なるもの六箇所とを有するのみ、又英國に於ては平均二箇年を以て大艦を竣功するも、佛國に於ては然く迅速ならず、其迅速彼に優りしは、但だ近ごろ新造甲鐵戰鬪艦中の一隻を約十八箇月を以て竣功したるもののみ、最後に造船職工の賃銀も亦英國は我佛國より廉なること約百分の二十五に及べり。

之を要するに英國諸艦は、概ね新造にして非常の噸數に上り、其速力も亦平均我に超越せり、而して世界到る處に之を散布し、無數の根據地に配付せり。

（原註）　印度及極東への海路には、ジブラルタル、馬耳太、亞歷山德利亞、亞丁、孟買、崑崙坡、新嘉坡、香港を有し、是等の諸港には、皆貯炭庫の備あり、殊にジブラルタル、馬耳太、崑崙坡、香港には最大艦を修繕し得べき設備をも有せり。

斯くの如くして平時には之を無數の艦隊に分ち、分艦隊に別ちて、世界の諸海面に派遣し、且つ其海面に在る列强の艦隊に對しては、何處に於ても、之に凌駕する隻數、噸數、勢力、速力を保たしめ、一朝植民問題若くは經濟問題の喧騰するに至らん乎、如何なる遠海と雖も、爭論の觸起せる方面には、更に直ちに强有力なる後援艦隊を電發し、以て此海の常備艦隊に合せしめざるはあらず、故に英國は何時も其外交事件を指導し、司配し、裁斷し、他國は則ち已むことを得ず、往

之に屈從するに了るのみ。

＊　＊　＊

極東に於ける歐洲列强の艦隊表は大に注目す可き價あり。

英國は支那海に於て、最新式にして、大速力を有する甲鐵戰鬪艦三隻、甲鐵及裝甲巡洋艦十一隻を有し、露國は旅順口に露海軍中の良艦たる甲鐵戰鬪艦二隻、甲鐵巡洋艦七隻を集中し、獨逸は此海に於て比較的に利害少なしと雖も、尙ほ巡洋艦七隻を膠州灣に泛ふるあり、而して、佛國は支那海と東京海に、甲鐵戰鬪艦二隻と、二等巡洋艦三隻を有するのみ、況や戰鬪艦二隻の中、一隻は木鐵合製なるに於てをや。

（原註）日本艦隊は噸數實力ともに英露の極東艦隊よりも優勝なり、然も此には之を省く、歐洲列强の勢力比較なればなり。

バイリー氏は佛國の遠洋分遣艦隊に就きて、之を論じて曰く、

『遠洋分遣艦隊の軍艦として、佛國が特に製造したる巡洋艦は、其勢力劣弱にして、我國艦隊の品位に副はず、從て佛國をして有形にも無形にも、他の輕侮に報復するの希望を恭徹せしむるのみ、惟ふに往昔海陸の軍備なき未開若くは野蠻人民の崇敬を惹き、或は一發の砲擊其降服を促しゝ時代に適せし是等の巡洋艦は、今日最早賴むに足らず、何となれば極東の狀態一變し、錯綜し、加重し來り、今日は啻に東方國民の海軍に敵するのみならず、歐米の艦隊と衝爭せざる可からざるに至りたればなり。

母國を距ること彼が如く遙遠に、一の根據地だに保持せざる海面に於て、何れの艦隊に比看するも、戰鬪力に於て、艦隻數に於て、最も劣弱なる我巡洋艦隊を以て何事をか爲すを得んや、只た名譽の討死、歟然も是れ佛國の利益に將た何の補あらんや。』（一八九九年三月十五日の「外交及植民問題」たるバイリー氏が「軍艦論」の一節）

バイリー氏は結局ヂュピュイ・ド・ローム號式の甲鐵巡洋艦に少しく改善を加へ、此種の艦隊を組織して以て、極東海に泛べんことを希望せり、即ち本式艦に少しく噸數を增して、以て三千浬繼行の遠航力を有せしめ、且つ是等の艦種を揃へ、戰鬪の際優遇なる一致を有たしめんと欲するものなり、曰く『此種の艦たる遙遠海に於て佛國の希望と勢力とを恢復し、少くも我國をして列强と同一の地

歩を占めしむ可きものなり』と。

佛國海軍工事會計審査委員會が、海軍大臣に呈したる報告は左の如し、

一八七〇年より一八八七年までに海軍諸工事に費したる金額は五億法とす、即ち年に約二千八百萬法とす、是れ軍港に於ける新艦製造費と其他の造船所よりの新艦購入費とのみに充用せしものなり。續きて一八八七年より一八九八年までに六億法を支出せり、即ち之を毎年に割當つれば、平均六千萬法を費せり、今ま之を前期に比看せよ、其增加も亦少なしとせず、殊に此後期中に就きて之を細別すれば、一八九四―九八年の四箇年は、毎年平均七千二百萬法を支出したり。且つ我佛國海軍豫算は久しく二億法に足らざりしが、昨年よりして二億五千萬法に上りたれば、行〻將に三億法に達す可し、是れ佛獨戰以降海軍進行の結果とす。（以上報告の要旨）

不幸にして佛國は海軍政策を缺き、其方針一定せず、否な寧ろ無方針なりしといふも不可なけん。

抑〻海軍の組織たる潛運默移する對外政策に呼應するものならざる可からず、而も其艦隊たる咄嗟の間に速成す可きものに非ず、數多の年月間一定の方針により繼續して刻苦勵精したるの結果なる可きものとす。

一八八二年（英佛兩國ナイル河上流に衝突の蔓延を見はし英國海軍大擴張の端を發せし年）以來、佛國果して英國の前に對立し之と抗爭せんと欲するものならしめば、艦隊を列ねて此强國の海軍と決戰するに堪ふ可き諸艦を建造せざる可からず、然も我造船廠に於ては敵國の如く一時に數多の甲鐵戰鬪艦を製造する能はざるを豫見せば、更に彼と鬪ふに一新戰略を講じ例へば突忽出でゝ敵を襲ひ、敵にして之を緊抱せんとすれば、優適の速力に資して是を脫し、其機の乘ず可きを見れば、復た來りて戰鬪を避けざる快速的甲鐵巡洋艦の製造に出でざる可からざるが如き、即ち是れなり。

不幸にして佛國は最も雜多なる目的の間に迷ひ、軍艦建造方案の廢置變改を經たること、其れ實に幾回なりしぞ、バイリー氏又曰く『今や我國は我國に必要不可缺なる軍艦の少數すら整備せず、從ひて我沿岸を防禦するにも足らざれば、遠近の海上に於て我國旗の威望を維持するにも足らず、又列强に對して我

國の所志を主張するにも足ざれば、其非望を遏絶するにも足らずと。是れ必ずしも佛國軍艦の少數なるのみ喫ずるに非す、現在の艦種と勢力との一致を缺きたるが爲に、攻勢にも、守勢にも、十分の働を爲し難きを慨するなり。

且つ我佛國に憾む所のものは、根據地の數少きに在り、見よ支那海に於ては、臺灣及澎湖列島を抛棄し、僅に廣州灣を收めたるも、實用に當らざる一港のみ、而して地中海に於ても、亦多くの避匿所及給養所を有せざるには非ずや。

最後に吾輩は將に言はんとす、佛國は對岸の英國が彼が如く其海軍力を進歩擴張して、其絶大なる植民政策の實行に資しつゝあるを目睹しながら、一八七一年以來、我海軍豫算は減却し、我海軍の無勢力を招致せる抑是れ何等の愚策ぞや。

愛國誠心の熱血鉄石も泣く欲すかんとす

我佛國は獨り英國海軍の進歩擴張に注意を怠りしのみならず、他の方面に於ける海軍の新創建設を諦視するをも忘れたり、佛獨戰爭を距ること茲に三十年、此間に伊國及米國海軍の增大を經たり、獨國海軍の建設を歷たり、豈啻だ後者は建設せられしのみならんや、今や方に大擴張に勉焉たり。

故に我佛國たるものは、以上の諸海軍力に鑑み、即今直ちに英國と海上に能く戰ふまでに至らざるも、責めては三國同盟の艦隊に對し、優に抗爭するだけの實力を備へざる可からざるなり。

*　*　*

獨逸の海軍豫算は、昨年度に於ては、一億六千萬法なりき、是れのみにては未だ以て驚くに足らざるも、近數年間に之が追加豫算として支出せし金額は二億法に達するあり、殊に一八九八—一九〇三年間に亘れる海軍擴張六年計畫を建て、全然製造費に充てられたる金額は實に五億法となす。

ミューニッヒの「アルグマイネ・ツァイツング」が報ずる所に據れば六年計畫案は左の如し。

年次	費額	一萬千噸十八節甲鐵艦	九千噸二十節大巡洋艦	小巡洋艦	砲艦	遠洋水雷艇
一八九八年	六四、〇〇〇、〇〇〇法	二隻	一隻	二隻	二隻	一隻
一八九九年	六六、〇〇〇、〇〇〇	二	—	二	一	—
一九〇〇年	八二、〇〇〇、〇〇〇	二	一	二	—	—

一九〇一年	八一,〇〇〇,〇〇〇
一九〇二年	七八,〇〇〇,〇〇〇
一九〇三年	七一,〇〇〇,〇〇〇
合計	四五,〇〇〇,〇〇〇

是れ即ち議會の協賛を經し所にして、其金額は四億四千五百萬法たり、此他一九〇三年後に於て尙新造費として八千三百萬法、支出の豫定なれば、其總額は五億二千八百萬法に達するものなり。

之を要するに獨逸の新製造費は平均年額七千五百萬法なれば、少しく佛國の同平均額を超ゆるのみ、然れども獨逸にては一方には職工の賃銀太だ廉なるあり、他方には其新造諸艦は同式を採用するが故に、我佛國が絶えず製式を變更し、製費の增加を來すが如き虞を防げり。

獨逸は强大なる海軍を創建せんが爲に、斯くの如き事業を策成せり、新式の諸艦を以て新海軍を建有するは、我國に於ても亦離る可からざる今日の急務なり、目下我諸港に擱寞する彼レ舊老の諸艦の如き、畢竟單だ建造物といふの價値あるに過ぎざるのみ。

夫れ然り、故に今にして斷然我海軍を擴張するにあらざれば、未だ數年を出でざるに、獨逸の海軍はバルチック海及北海に於て、善く露佛聯合の艦隊に匹敵し、同等の勢力を有するに至る可し、而るを況んや個々分別せる露佛一國の艦隊に敵對するに於てをや、然れば則ち我佛國は啻に三國同盟に對し衡爭し得ざるのみならず、我勢力の五分三は常に地中海に留めざる可からざるを以て、北方の海面に於ては、獨逸に對し我亦敗を取るあらんのみ。

著大なる堅忍と、繼續の精神とを以て强大彼が如き海軍創建の大事業を策成したる維廉皇帝の舉は、徒らに露佛兩國に對し、時機到來の日、之と決戰せんが爲の準備なりとのみ思惟す可からず、其計畫や宏大なり、帝は戰鬪上帝國の捷利を準備しながら、其人民の經濟的富實を發達せしめられたるなり、是れ豈壯帝の一大功烈にあらずや。

獨逸の商業は數年來非常の發達を爲し、著大なる鑛山の富に由り、佛國に比し

て職工賃銀の低廉に由り吐口を搜出するに堪能なる商業家の活動に由り利益ある條約の惠に由り其工業亦多く英國に讓らず否な寧ろ英國工業の强敵となり來れり彼が佛國の商業を壓倒し世界の市場に著大なる輸出を擴播するに至りたるは即ち此工業發達の結果にして又商船增大の原因なり。

今や漢堡は大陸第一の港となれり年々歳々增加し來る大噸數の獨逸商船は山來英米商船の占有なりし世界の諸航路を去來往復するには至れり。

（原註）獨逸の貿易と商船との發達を比看するに九箇年間に左の如く進歩せり。

貿易比較

一八七〇年	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇注
一八九九年	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

商船比較

一八七〇年	一五〇噸
一八九九年	八二、〇〇〇噸
	一、一二五
	九〇〇、〇〇〇

海國の經營注目すべき唯だ此結果、此原因唯だ

一八九七年歐洲諸大港入船噸數

倫敦	一六、〇〇〇、〇〇〇噸	ロッテルダム	五、四〇〇、〇〇〇噸
リヴァープール	九、〇〇〇、〇〇〇	馬耳塞	五、三六〇、〇〇〇
漢堡	六、七〇〇、〇〇〇	ル・ハーヴル	二、二〇〇、〇〇〇
アンヴェール（即ちアントワーヴ）	六、二〇〇、〇〇〇	ドンケルク	一、五〇〇、〇〇〇

一八九八年に至り漢堡の入船噸數は七百四十萬噸に上れり。

此港築港の爲に投じたる費額は既に一億六千萬法に上り其後尙ほ必要の工事に巨額の資金を下したり。

斯かる進歩の前面に立てる維廉帝は早くも此隆起せる一國の活動に資するには未來の吐口を創開するの必要急務なることを認められたり是に於て乎植民帝國の組織は帝の主たる事業とはなれり阿弗利加伯剌西亞支那の經營は即ち之が爲なるなり。顧るに是等の植民地は尙ほ本國幾多の費用を要す可し而も將來獨逸の進歩に資益する所のもの其れ以て如何と爲すや。

兎はいへ急突の擴張は効果を期し難く依恃なき競爭は危險の虞あり且つ工

獨帝は今世の英傑なる哉

徒らに兵を外に出し、擴大の交を以てし、可なるかむはみざる

宇内の形勢斯くの如し、國を立つるもの如何のみ

業の吐口を求め、此に商品を植えんと欲せば、外人をして商業上の信用を起さしむると同時に、國力の威信をも感ぜしめざる可からず、獨逸帝が海軍創立の敵慮を發せられたる原因實に此に在り、何となれば之をだに有すれば、必要なる場合に際し、競敵の國に對して、強硬の談判を爲し得べければなり、凡そ強硬の談判を聽するものは、外交の態度と強大の兵力と唯だ此二要件これあるのみ。

曩に帝が南部阿弗利加に一分の領土を創立するや、英國は聽す能はずと爭ひたり、此抗議に對し、獨逸は嚴然たる態度を執りて之に答へ、終に英國をして讓歩せしめにき、是時に當りて獨逸帝國外交の態度は喫緊的に佛國の同情を博得せし、是れ此態度が英國を反省せしめたるや疑なし。獨逸が強大の兵力を備ふると同時に、強硬の外交に出づるを證せるなり

* * *

十九世紀末の政策は、最早國際的紛議の上に、多く權謀術數を容れず、只だ其實力如何に在り、現に米國は最も非難す可き戰爭の舞に出でたるも、西班牙の植民帝國を征畧し來りたり。

米國且つ如斯くの如し、其他知る可きの天下の如し

米國の自期する所亦此に在り

自國の勢力強大の感念は、端なく此共和國民の野心を昂騰せしめたり、モグー氏之を論じて曰く『一八九七年十二月六日マクキンレー氏は教書に於て古巴を併有するは罪惡の舞なりと公言せしに係はらず、世人が此教書を論難する時には、大統領は已に古巴を自國の藥籠中に收め、尚ほ且つ以て足れりとせず、進みてポルトリコに臂を伸ばし、世人の再たび之を是非する際には、早く比律賓群島を要求せり』と。「外交及殖民問題に掲載せしモグー氏が「巴梨條約論」の一節」

吁其建國の初に當りて、崇大の自由家たりし米國は、今や變じて尚俗の劫掠者となり了れり。

抑米國が彼が如き非常の勝利を得たるものは、主として西班牙の疎忽放慢に由りしや疑なしと雖も、其の由來する所は、繁榮無息なる商船の保護上、競近組織せし新式の艦隊に在りと斷言せざる可からず。

米國の新艦隊擴張の舞は、大に歐洲の注意を惹起せり、惟ふに今より數年を經なば、其艦隊の好敵手は最早軍需砲熕水兵の缺乏せる老朽艦隊に在らずして、嚴然たる強大海國の艦隊に在らん。

（原註）今年議會に提出せられたる海軍擴張案は左の如し、

甲鐵戰鬪艦……一三、五〇〇……三
甲鐵巡洋艦……一二、〇〇〇……三
裝甲巡洋艦……六、〇〇〇……三
巡洋艦……二、五〇〇……六

艦隊の必要は其れ斯くの如し、最後に吾輩は將に言はんとす、若し英國にして佛國との海戰上、之が結果に多少の疑懼を感ずるあらん乎、彼我最近の交渉上、英國豈彼が如き傲然たる態度を以て、我に臨むの危險を冒すを敢てせんや。

又一方なる我隣國を顧みれば、亦雄大の政策を保有するを見る、之が良報告者とし受取る可きは「軍備的國民」の著者將軍フォン・デル・ゴルツならん、其著に曰く『若し我國にして前年得たる戰捷の桂樹を攀ぢ、其上に偃臥して、好夢を貪り、我存在、我希望、我安寧は永久に確乎たり、我隣國は吾に對し禍心を包藏する無けんと忘信しつゝあらん乎、吾人は終に隣國の食餌たらんのみ、日に勉め、月に勵み、我軍備を完成すべし、我永久なる最良の政策は、之を置きて有ること無けん』と。

將軍フォン・デル・ゴルツが此是定は、是れ戰に捷ちたる一卒の言のみ、何ぞ擧げて謂ふに足らんや、然りと雖も不幸にして是れ至言なり、古今の歷史は之を明證して餘あり、若し夫れ之に反對する所の者は、是れ四海兄弟なる博愛主義を夢想する「ユートピヤト」の徒のみ、斯くの如きは畢竟自由なる思想の濫費なり、否らざれば即ち宇内の解兵に要する列强の外交的協商成るの後ち、始めて想像するを聽すべきのみ、見よや羅馬がカルテーヂュに克ちたるは、其海軍が此商業的人民の艦隊に優りしの日にあらずや、又英國が彼が如く廣大なる植民帝國を建造するの資格を許さるゝものは、其の强大畏るべき海軍力を有するを以てにあらずや。

佛國は全一世紀間精力を傾注し、無數の人と金とを犧供し、以て其植民地を創造せり、而も一方には商船を發達し、他方には海軍を擴張するに非ざる以上は、之を保つを得ず、又之に價値を賦與するを得ざる可きなり。

吁我佛國は、獨逸が其海軍擴張の爲に六年間に五億法を支出するの例にも倣ふ能はざるほど、然く零落し來れる歟。

名言不朽

思へ、人は畏敬すと謂はずや畏るゝに足らざるほどの國は、又敬はるゝこと無かる可し、一國が世界の上に有する所の有形無形の勢力は、其兵力と表裏して相離る可らざるものなり、夫の軍備減殺必要の問題は、未だ容易に終結せず、其論難は尚ほ永く國際會議の裏に繼續せんのみ、平和を欲せば、戰鬪を準備せよとの古語は、今に於て尚ほ未だ朽腐せず。

惟ふに國民間の平和的繁榮を招かんと欲する崇大の思想は、固より喜ぶ可く敬す可し、然れども吾人は須く注意すべし、若し之に對し安信に過ぎん乎、我佛國に取りて恢復す可からざる失敗を宣告し來らんも、亦未だ知る可からざるなり。

（新註）時に海牙に萬國平和會議あり、且つ當時佛國の同會參列に關し、獨逸の新聞は佛國を揄揶し、之に參列する以上は、アルザス及ローレンの恢復を夢想す可からずといひ、英國の新聞亦フアショダ事件に就き同調に出づるあり、故にいふ。

激烈なる嫉妬の目的となれる我佛國は、常に數敵を左右に有せり、然れども我佛國の勢力にして強大畏る可きに至らん乎、敵數は爲に減ぜざるも、同盟は求めずして來る可きなり。

第十節　列强の海軍　一八九八年末

（一）英國海軍

一等甲鐵戰鬪艦	自一〇、〇〇〇噸 至一五、〇〇〇噸	平均一七節	二九隻
二等甲鐵戰鬪艦	自一六、〇〇〇噸 至一〇、〇〇〇噸	平均一四節	二三隻
以上の諸艦は概れ艦隊編入若くは待命			
甲鐵海防艦	自三、〇〇〇噸 至五、〇〇〇噸	一一〇節	一六隻
甲鐵巡洋艦	八、〇〇〇噸	自一二節 至一六節	一一隻（老艦）
	六、〇〇〇噸	自一八節 至一九節	七隻（一八八六年頃製造）
以上の諸艦は概れ待命			
一等裝甲巡洋艦	自七、〇〇〇噸 至一四、〇〇〇噸	平均二〇節	一六隻
以上の諸艦は都て艦隊編入若くは待命			
二等裝甲巡洋艦	自三、五〇〇噸 至六、〇〇〇噸	自一五節 至二〇節	四二隻（新艦）一五隻（老艦）
大多數は艦隊編入及警備艦若くは待命			
三等裝甲巡洋艦	自一、五〇〇噸 至二、五〇〇噸	自一三節 至二〇節	五〇隻（半數ハ新艦）

水雷母艦		二隻	
水雷報知艦		三三隻	一九節
水雷驅逐艇		七〇隻	自二七節至三〇節
遠洋水雷艇		一二隻	二三節
一等水雷艇		六三隻	
二等水雷艇		一七隻	
斥候水雷艇		五四隻	

其の製造中に屬するものは左の如し、

甲鐵戰鬪艦	一三、〇〇〇噸	四隻	一八節
甲鐵戰鬪艦	一五、〇〇〇噸	三隻	一八節
甲鐵巡洋艦	一二、〇〇〇噸	八隻	二一節
裝甲巡洋艦	一一、〇〇〇噸	三隻	二一節
裝甲巡洋艦	五、六〇〇噸	二隻	二〇節
三等巡洋艦		四隻	二〇節

水雷破壞艇　三〇節　六隻

(二)　佛國海軍

甲鐵戰鬪艦	一二、〇〇〇噸	一六隻	自一四節至一八節

四隻は一八七九年―一八八六年間の製造十二隻は一七―十八節にて近時製造

甲鐵戰鬪艦	一二、〇〇〇噸	一隻	一八節

一八九八年試運轉

甲鐵戰鬪艦	自一〇、〇〇〇噸至一九、〇〇〇噸	七隻	自一三節至一五節

一八七三年―一八八一年間に製造老艦

甲鐵戰鬪艦	自五、〇〇〇噸至六、〇〇〇噸	五隻	一四節

一八七七年―一八八三年製造老艦

甲鐵巡洋艦	自五、〇〇〇噸至六、〇〇〇噸	六隻	一九節

一八九〇年―一八九四年間に製造

甲鐵海防艦	自五、〇〇〇噸至七、五〇〇噸	一四隻	自一〇節至一七節

內五隻は老艦

一等裝甲巡洋艦	自六〇〇〇噸至八〇〇〇噸	自一七節至二三節	七隻	
一八七六年―一八九七年間製造、多數は新艦なり				
二等裝甲巡洋艦	自三〇〇〇噸至四〇〇〇噸	自一九節至二〇節	二〇隻	
一八七八年―一八九八年間製造概して新艦				
三等裝甲巡洋艦	二〇〇〇噸	自一八節至二一節	一七隻	
一八七二年―一八九七年間製造内七隻は老艦にして十五節				
水雷母艦	六〇〇〇噸	二〇節	一隻	
一八九五年製造水雷艇十隻附屬				
水雷巡洋艦	一、二〇〇噸	自一七節至一八節	六隻	
水雷報知艇	自三〇〇噸至四〇〇噸	自一八節至二六節	一六隻	
遠洋水雷艇	自二〇節至三一節		三三隻	
一等水雷艇	自二二〇節至二六節		二〇〇隻	
二等水雷艇	二〇節		一〇〇隻	
海底艇	一五節（ギユスタープ・ゼデ號、シムイト號）		二隻	

其の製造中に屬するもの左の如し、

甲鐵戰鬪艦	九、〇〇〇噸	一七節	一隻
甲鐵戰鬪艦	一三、〇〇〇噸	一八節	一隻
甲鐵巡洋艦	一一、〇〇〇噸	二三節	一隻
甲鐵巡洋艦	自八、〇〇〇噸至九、五〇〇〇噸	二一節	九隻
一等巡洋艦	六、〇〇〇噸	二三節	一隻
三等巡洋艦	二、五〇〇〇噸	二一〇節五	二隻
水雷報知艇	三〇〇〇噸	二六節	二隻
水雷驅逐艇		二六節	四隻
遠洋水雷艇		自二六節至三〇節	七隻
一等水雷艇		二四節	一〇隻
海底艇（モルスス號、ナルヴァル號）			二隻

一等甲鐵戰鬪艦	自一〇、〇〇〇噸至一五、〇〇〇噸	自一六節至一八節五	五隻	（新艦）
三等甲鐵戰鬪艦	自五、〇〇〇噸至七、五〇〇噸	自一二節至一五節	五隻	（老艦）
甲鐵海防艦	三、五〇〇噸	一五節	八隻	（新艦）
一等甲鐵巡洋艦	自八、〇〇〇噸至一〇、〇〇〇噸	自一四節至一五節	三隻	（老艦）
二等巡洋艦	自五、〇〇〇噸至六、〇〇〇噸	自一八節至二一節	五隻	（新艦）
三等巡洋艦	自二、〇〇〇噸至四、〇〇〇噸	自一四節至二〇節	三隻	（新艦）
四等巡洋艦	自一、〇〇〇噸至二、五〇〇噸	一六節	九隻	（新艦）
水雷驅逐艦		自一六節至二〇節	六隻	
水雷報知艦		自二〇節至二七節	一二隻	
一等水雷艇			八〇隻	

其の製造中に屬するもの左の如し、

一等甲鐵戰鬪艦	一一、〇〇〇噸	一八節	四隻
甲鐵巡洋艦	自九、〇〇〇噸至一〇、〇〇〇噸	自一九節至二〇節	二隻
二等巡洋艦	六、〇〇〇噸	一九節	三隻

四等巡洋艦	二、五〇〇噸	二一節	二隻
水雷艇			若干隻

（四）伊國海軍

甲鐵戰鬪艦（一八七八年—一八九七年間製造）	自一〇、〇〇〇噸至一六、〇〇〇噸	自一七節至二〇節	一一隻	
甲鐵戰鬪艦	一〇、〇〇〇噸		一隻	（試運中）
甲鐵戰鬪艦	四、〇〇〇噸	一〇節	五隻	（老艦）
甲鐵巡洋艦	六、五〇〇噸	二〇節	二隻	
裝甲衝角水雷艦	二、五〇〇噸	自一七節至二三節	一五隻	（新艦）
裝甲水雷巡洋艦		自一七節至二〇節	一三隻	（新艦）
水雷報知艦		自一七節至二〇節	二隻	
一等水雷艇		二六節	五隻	
二等及三等水雷艇		二二節	自一〇九隻至一二〇隻	

海防艦			四隻
其の製造中に屬するもの左の如し			
甲鐵戰鬪艦	一三、〇〇〇噸	二一節	三隻
甲鐵巡洋艦	七、〇〇〇噸	二三節	三隻
衝角水雷艦			一隻
裝甲水雷巡洋艦		二三節	三隻
水雷驅逐艇		五三〇六自節	五隻
一等水雷艇		二七節	五隻
二等及三等水雷艇		二七節	二〇隻
海防艦			一隻

(五) 露國海軍

甲鐵戰鬪艦（一八八六年—一八九六年間製造）	一三、〇〇〇噸自	一一七五節自	一三隻
甲鐵戰鬪艦	一〇、〇〇〇噸	一四節	一隻
甲鐵海防艦（一八七二年製造）	四、〇〇〇噸	一六節	三隻（新艦）
甲鐵海防艦（一八六四年—一八七五年製造）	三、〇〇〇噸自	一〇六節自	一〇隻（老艦）
甲鐵巡洋艦	一二、六〇〇噸自	一一九七節自	六隻（新艦）
	一五、〇〇〇噸自	一一五二節自	四隻（老艦）
一等巡洋艦	一六、〇〇〇噸自	一一〇五節自	三隻
二等巡洋艦	一二、〇〇〇噸自	一三節	一二隻
水雷巡洋艦		二〇節	九隻
一等水雷艇		二〇節	六〇隻
二等水雷艇			八〇隻（老艇）
其の製造中に屬するもの左の如し			
甲鐵戰鬪艦	一一、〇〇〇噸自	一八七節自	六隻

甲鐵巡洋艦	自一八、〇〇〇噸至一二、五〇〇〇噸	二〇節自二二〇節至二三〇節	二隻
一等巡洋艦	六、〇〇〇噸		六隻
二等巡洋艦	三、〇〇〇噸	自二六節至三〇節	一隻
水雷驅逐艇及水雷艇			九隻

(六)　米國海軍

一等甲鐵戰鬪艦	一一、〇〇〇噸	一六節	六隻（新艦）
一八九三年―一八九八年間製造			
二等甲鐵戰鬪艦	六、〇〇〇噸	一七節	一隻（新艦）
一八九二年製造			
甲鐵衝角艦			一隻
甲鐵巡洋艦	九、〇〇〇噸	自二二一節至二二二節	二隻（新艦）
一八九一年―一八九五年間製造			
甲鐵海防モニトール艦		二砲塔	六隻
甲鐵海防モニトール艦		一砲塔	一三隻

裝甲巡洋艦	自一、五〇〇〇噸至七、〇〇〇噸	自一九節至二三節	一五隻（新艦）
巡洋艦			三隻
砲艦			一六隻
特別艦			二隻
遠洋水雷艇		自二〇節至三〇節	二一隻
其の製造中に屬するもの左の如し、			
一等甲鐵戰鬪艦			三隻
一八九九年竣工			
甲鐵巡洋艦			一隻
遠洋水雷艇			一二隻
水雷破壞艇			一二隻

第四篇　結論

支那帝國未然の分割

千古未曾有の變局

今の時は是れ何の時ぞ、數千載一遇の時なり、更の一大關鍵の時なり、三千載來滯停不動の民は漸く將に動かんとす、彼や尚ほ濃霧四塞の内に在り、漠々として外を見ず、而も歐洲一脈して濃霧は忽ち消散せり、濃霧忽ち消散して彼等の眼前に何をか現出せし、即ち是れ泰西的生活。

彼や既に泰西的生活に接觸す、之を受取らざらんと欲するも得ず、明日は是れ彼等の所謂、邯鄲の歩を學ぶの初歟、否な是れ泰西的生活に其一歩を移すの日ならん、惟ふに今より西人は此豐富廣大の土壤に、無數の工場を創設す可し、雜多の事業を播布す可し、中華の民の明日は如何。

低度の生計に安んじて、是れより以外に人間の事業あることを知らざりし、彼等は、自今物質的及精神的醇化の威力を感受しつゝ、過去三十世紀間繰返しゝ彼等の古傳を一朝顚覆し、千となり、萬となり、十萬となり、百萬となり、團々擁々

即ち是れ白色難

古の時秦を亡ぼすもの必ずや今の時清を滅ぼす此策も此制

相率ゐて、西人の工場に麕集ず可し、白人の事業に追隨す可し。

夫の所謂「黄色難」は、山來屢、歐洲を震駭せし、如今眩瞑す可き一種の映象は西方よりして東方に逼れり。

今や歐洲は支那に於いて二箇の危險なる問題を有せり、一は即ち英國得意の「門戸開放」策にして、他は即ち「勢力範圍」制なり、是れ此二者こそ交出で、近く中華の帝國を强要し、調印せしめたる條約の結果なれ。

其第一制は現に列强が各自家の經營の爲に保存せる圈帶をも合し、支那大陸全部を舉て、英國の商業に、英國の勢力に、英國の進入に委せんとするものなり、抑英國の野心や際限無し、彼は或邦國を誘ひて同盟とし、自家の途方も無き此計畫に合せしめんことを希望せり、即ち支那に於て土地の讓與を有せず、其利益とする所は純然貿易に在りと見えたる邦國を誘ひて……。

是れ滿洲に於ては露國の進歩を害し、山東に於ては獨逸の進歩を害し、南部支那に於ては佛國の進歩を害するの最も甚しきものなり、然も英人の慣用手段たる開放政策の眞意は世人夙に之を知れり、故に此分野に在る列强は、各自家

英を尤むるは則ち尤似たり尤めて其の敝に抑ふ者は誰ぞ

懍然膚栗を生ず

勢力範圍の經營に精力を傾注しつゝあり、是れ此結果は他日英國の商業と航業とに所謂火の栗丸を投ずるに至る可し。

其第二制は佛國英國と嘗て之を阿弗利加に於て實驗し、終に緩衝地を立て、山りて繼續せし紛議を解きたる制なり、勢力範圍制は則ち此に濫觴せり。

抑英國が「門戸開放」主義を持して、以て支那に臨みたるは、則ち此老帝國の瓦解を促進せしものなり、現に支那は恐慌の裏に在り、他年一日尤然たる此巨體は、分たれて數箇の獨立國となるに至る可し、是に至りて今日の「勢力圈帶」制は、始めて觀る可きの形體を具へ來り、條約の區域に從ひて帝國の諸省は列强間に分割せらるゝに終る可し、佛國は無論其分割に參預す可き所のものなり。

事此に至らん乎、此大帝國の北部は露國に歸し、山東及黄河流域の一部は獨逸に屬し、福建は日本に隷し、最も貧乏なる南部の地方は、擧げて英國に委せんとする歟、然れのみ而して以上の諸表に漏れたる地方は、則ち英國は支那大陸の一半を占め、而も最も富饒なる部分を收め、揚子江及其會流、支流、並鐵道を監督して、支那を勒制し、終には全大陸の商業及財政を司

一幅未然の分割圖

英の貪此に在り亦此に智在り

配するに至る可し、若し之を疑ふ者あらば、是れ英國の慣用政策を知悉せざる徑侗者流たらんのみ。

然りと雖も英國の外務が支那を要して最近に收めたる將來の希望に對し、彼と自ら遲疑を生じたり、蓋し彼の恐るゝ所は、其の希望の冷却に在り、博奕に臨みて輸贏を爭ひなば、勝利の悉く我手に歸せざる可きに在り、尚ほ審に之を言へば、彼の憂懼する所は、彼の現に保存せる廣土の一分を放棄せしめらる可きに在り、是に於て乎彼は之が防衛の手段を講じ來る、彼は干戈の抗爭に出でん乎、抑〻經濟の格鬪に出でん乎、蓋し前者は危くして必勝を期し難く、唯だ後者の安全にして必致を望む可きあり、彼は乃ち後者を擇取せり、而も彼は之を擇取し、列强と相見える以前に其效果の幾割を前引きし來りたり。

一歩を進めて、英國の政策及其貪心を直指せん乎、彼は喜望峠より亞歷山德利亞港に至る阿弗利加を取りて掌握に歸し、三億五千萬の消費者を有する支那を收めて藥籠に入れ、極東の關門たる蘇士の運河亦君が一家の玄關たらしめんと欲す、是れ彼が壯觀の裝置に要する餌食なり、謙讓なるアルビオン（ロスト・オヴ・ネイション）最有名

好諧謔

滔々たる公等の口に入る道なるを公等の口に資に入る格す

又曰く排同的盟

英國の目的は此盟に出でり

露西亞の貪欲は英國の制する所なり

又曰く英國の貪欲は支那の力を借りて自ら夫子の爲のみに資す

譽のジョンバール、が自ら滿足する所は、實に斯くの如し。

之に對し歐洲大陸は其れ何をか爲さん、人道の大義に由りて、英國の政策を論斷せん乎、未だ以て足れりと爲す可からず、歐洲大陸たるものは、貪慾無飽の英國に猿轡を銜めざる可からず、積弱無方針の支那政府に資力を存せしめざる可からず。

一八九八年末に起りたる事件は、英國の政策と支那の無方針とを證明して餘りあり、此歲九月七日北京駐劄英國公使サー・クロード・マクドナルドの陰謀に由りて李鴻章（リーホンチャン）は顚斥せられ康有爲（カンユーウエイ）は之に代りたり、康や未だ曾て顯職に上りたることもあらざれば、亦過失をも干さゝるの人、唯だ英國に得られたる故を以て、其信任を博せしなり、次ぎて同月十九日支那皇帝は歐洲の文明を模範とし、之に則る可き旨を宣示し、並帝國の組織を根柢より一變す可きの改革を布告せり、西太后の驚駭想ふ可し、是に於て此月二十一日に至り、太后は主權を已に復し、天子を要して位を辭せしめ、此崇歐主義の君をして、祖宗の殿陸地たる奉天府へ遷幸せしめ、李鴻章を起して、再たび外交の事局を總理せしむるには

至りたり。

（新註）天子位を辭し奉天に遷幸せりとは、當時歐洲に傳はりし誤聞なり、爾後清廷の內情久しく闇昧の裏に在り、著者筆を執るの日、未だ之を詳にするを得ず、爲に誤を襲ぎたるなり。

以上此急突の進歩は、皇帝の無經驗なる手に由りて打ち壞され了りたり。

此事件に就き、北京の人民は外國の干渉を懼ばず、喧囂する所あり、爲に忽ち損害を招致せり、十月七日歐洲の軍隊は列を齊へて北京の市街に進入せり、哥薩克の一枝隊は之が先頭に立ち、英國の海歩兵一隊は露國の同兵一分隊と之に次ぎ、獨逸兵は又之か後繼たりき、而して佛國政府に此出兵の通知せられざりしは、佛國をして無用の勞を省かしめたるのみ、幸にして靜謐も亦攪亂されず、日ならずして鎭定の電報世界に飛ぶには至りたり。

之を要するに此事變たる支那の守舊黨が當時の情勢を視て、以て自家の危急と爲し、死力を竭して新政に抗し、三千年以上人民の安んじ奉れる舊態を保持するに勉めたる結果のみ、而して支那帝國中最も富實の諸省を掩ひ、之を司配せんが爲に、露國の軍事的及政策的勢力を國內より排斥せんと企てたる英國の舉も亦爲に一頓し了りたり。

（誰か烏の雌雄を知らん）

是時に當りて露國は醜陋なる英國の舉に對し、西太后を保護せんが爲に、二萬五千の兵を旅順口に集中し、狼煙一發せば、北京に進入す可き準備を爲せり、且つ露國の支那に於ける、其情勢は前年に異なり、彼には既に西伯利貫串鐵道の在るあり、一旦事端觸發するも、英國艦隊の砲擊を受けず、訓練給養兼備せる優勢の軍を、直ちに繼發することを得べかりしなり、加之、露國の疆域は、支那の北部を圍繞せるを以て、地理的感念は早く支那人民の頭腦に深印すあり、而して露國の巧妙なる、老帝國の古傳を尊崇し、敢て蔑如するあること無ければ、夙に其倚信を收め、今や北京の宮廷に於ける露國の勢力は、牢として拔く可からざるに至れり、惟ふに彼は戰勝の日本に對し、前年其所思を行へり、然れば危急なる支那の爲に、今歲亦其解體を防護す可し、彼は昨日旅順口を占領し、以て獨逸の强奪に答へたり、然れば今日自ら進みて、英國の野心に對するに躊躇せんや、彼の支那に對する政策の神髓は、亦猶ほ歐洲に對するがごときなり、曰く保守、

大盜は保全と小盜とはいひ分ふ刹英露地方を易えれば亦然り

曰く平和曰く強硬、曰く公正、曰く均衡、曰く壯圖、即ち是れ彼の政策なり、且つ露と支那とは久しく接隣の好あり、好は假令缺如たりとするも、習慣の連鎖を相爲すあり、又其接隣の惠に由り、豐富の思想を交換し來りたり、故に一旦支那帝國の內地に於ける均衡にして破れん乎、國內は四分五裂を來し、露國が此國に有する商業の利益と及其政策の精神とは、共に大に侵害を被る可し、斯くの如きの分割は、彼の決して聽さゞる所ならん。

次ぎて北部支那鐵道（所謂北清鐵道）問題に就き、英露兩國政府間に紛議を惹起しゝも、其用意の縝重に由り、亦露國の勝利に歸せり。

直隸省—南部滿洲間鐵道延長の爲に、香港の英國銀行と支那政府との間に、公債の約成るや、在北京露國公使ヰールス氏は之に反對したりしも、必要を見ざるに至り、其抗議を撤回せり。

屢〻試みて屢〻敗れたる英國政府は、責めては滿清朝廷をして英國の利益を確保せしむる機會を捕捉せんことを僥倖し、總理衙門に告ぐるに、英國は支那の保護を自任し、諸外國の逼迫に對し、之を制するの準備を爲せる旨を以てし、直ち

孤城以て露なんと盤踞せるは英の策なり

に其艦隊を直隸灣頭に集中せり。

英國の徒勞せしや、一再にして足らず、ヰールス氏以謂へらく、鐵道公債問題の如き、以て國際の紛議を惹くに足らずと、乃て英國銀行組合の企圖に滿足を與へたり。

何時も英國の慣用政策に忠實なる機關新聞は、忽ち其筆鋒を轉し、英露兩國の接近を稱道し、且つ曰く『露國にして北部支那に於ける英國の商業を妨碍せず、且つ其他の支那諸地方に於ける大英國の重權を公認せば、英國は一臂を假して露國が北部支那の經營を助く可し』と。

咄何等の小心ぞ、何等の謙讓ぞ！

「タイムス」如是論誘言惑し來る時、「ノーヴォエ・ヴレミヤ」論理を正し、直截に之に答へたり、曰く『英國は吾人が吾人の力を以て成就したる事業を公認するの代償として、彼自身の利益保護上將來爲さゞる可からずと思惟せる一切を擧げ、豫め吾人に承認せんことを請求せり、然れども露國は自ら北部支那に於て得たる今日の地位に關し、一も他に公認せらるゝの必要を有せず、露國は此地方に

於て自ら希望する所のものを、自ら確保したるのみ、是れより以上亦多くを望はず、英國の好夢たる帝國分割の如き露國の想像にも上らざる所なり、牛莊鐵道の談判落著は牛莊鐵道の談判落著のみ、我滿洲占領に就き英國の好みて與へんと希望する承認と、將た何の相關するあらんや、若し強て英國に求めなば、露國の希望する所は唯だ一あり、極東に於ける露國の事業に英國の干預せざることと即ち是れなり」と。

裏裝なく著たる宛然たる舞稽劇中の和尚の如

眦を以て英を反噬する來れる是れなりの點

＊　＊　＊

是れ此勸告たる極東に利益を有する列強は皆英國に對して亦之を三復せんと欲す。

大陸の英國に親しむ列強の常態の如し

一八九八年十二月三日米國大統領マクキンレー氏が發したる敎書の一節を此に引き來る亦無用に非ざる可し、曰く『今や支那沿岸諸省の一分は、歐洲列强の制下に立てり、此支那帝國に湧出せし非常事件に關しては、米國亦決して無關係なる傍觀者にあらざりき』と、又其結末に曰く『米國の利益は十分に保護せざる可からず、故に米國は軍艦をして着隷灣を警備せしめ、且つ海步兵一隊を派して之を北京まで進入せしめたり』と。

萬頃九州の地震々として大いに殺れ殆んど

伊國が近く三門灣請求の擧は、極東の戰亂を惹起す可き歟、曰く否、吾輩は未だ之を信ぜざるなり、兎はいへ、支那大陸の經營問題には、列强利益の大關係を包含すあり、平和なる現狀維持商工業的利益に惠す可き「スタチュー・コー」を、永遠に保たんことは固より豫期す可からざるなり。

（原註）一八九九年三月三日伊國政府は支那海に於て分遣艦隊を編成し、一の地點を以て其錨泊所貯炭所とし、以て將來の事變に備ふ可き旨を發表せり、之が結果として北京駐劄伊國公使は浙江省中に在る三門灣の租貸を總理衙門に請求せり、灣は上海を距ること遠からず、寧波に近きの地なり、支那政府以謂へらく、斯くの如き邦國が支那に於て享受す可き利益は、鐵道敷設權及鑛山採掘權の讓與ぐらゐに止まる可きのみと、乃ち三門灣租貸の請求を以て不當と爲し、單純に之を公使マルチノー氏に返却せり。

伊國人は大に激昂し、請求の斥却を以て、侮辱を受けたりとし、之が理由の辯明を要求せり、是に於て倫敦駐劄支那公使は急に羅馬を見舞ひ、國交上の不

調和に就き辯解する所あり、以て伊國の不滿を慰したりと雖も、今日に至るまで總理衙門は依然其讓與を拒絶せるが如し。

此事件に對する英國の態度は頗る怪む可し、初め英國は太だ伊國の請求を喜ばざりしが如し、是に於て伊國は之よりも同情を表せし佛國及獨逸に依賴する所あらんとし、しに「英國公使マックドナルド氏は傍より出でゝ其手を與へ、伊國海軍提督カチヴァローに要求を提出せしめたり、惟ふに是れ亦例の慣用策たる「英國の同盟兼明友」を助けて其志を達せしめ、他日之を自家に收めんとの確證ならざること無からんや。

怪又怪

此三門灣たる優勝の地位に在り、之をしも掌握せん乎、以て舟山列島に代ふるを得べし、是れ此列島たる、嘗て佛國が英國と共に一時占據せし所、之に對し佛英間には條約の在るあり、之を破るに非ざれば、英國は之を再占するを得ざるなり（伊國よりも英國に三門灣占領の意志あるかいふなり、）

三門灣には三道の深き航門あり、大船巨舶を容るゝに足る良好の錨泊所たり、若し多額の資を投じ、之を修築せば、一等の商港となる可きなり。

三門灣の優勝如し人の豈留意せざる可けんや

抑浙江の一省たる、今ま尚ほ列強の勢力範圍外に在り、故に伊國は先づ三門灣を擇取し、良實なる此省の商業を振興し、他日帝國分割の曉には、之を收めて以て伊國の領土と爲さんと欲したるものゝ如し、若し之にして其の欲する所の如くならば、近時エリトレーに於ける植民政策の失敗を償ふに足らん。

此際支那に對する列强の亂暴と、佛國の無頓着とを比觀するも、亦有益ならん、英國は登州と旅順の間に於て廟島を要求せり、是れ直隸灣のジブラルタルとも謂ふ可きものなり、次に獨逸は膠州灣を經營して、海軍の一等根據地と爲し、今は又伊國新に三門灣を窺視しつゝあり、之に反して佛國は嘗て廣東、上海、芝罘、天津、北京、寧波、臺灣、澎湖島を占領し、福州を建造し、打壞し、再造したるにも干はらず、未だ一回だも甲鐵戰艦の入港をも聽さゝる廣州灣を得て滿足せるに非ずや。

（新註）伊國の三門灣請求に對する英國の政策たる、寔に著者の揣摩する所の如くならん、否な之よりも更に一歩を進めたるやも亦未だ知る可か

英國の眞情掬ふ可からず

らず、初英國の後援を得ざれば、伊國の此舉を敢てせざりしや疑なし、既にして總理衙門の拒絶となり、伊國更に强硬の談判を北京に試みんとするに及び、後援者の意思は忽ち冷却せり、伊國が悲憤を抑えて泣寢入りたる原因は、主として此に在り、英伊の交情は爲に大に疎隔せり、然りと雖も英國の政策は的中せり、此紛議の際「タイムス」の記者オーラス氏に英國の政策如何を問ひたりしに、氏は答へて曰く『浙江の一省は未だ何れの勢力圈帶にも入らず、然も是れ亦何れの强國にか歸せざる可からざる地方なり、而して英、露、獨三國は、中部若くは北部なる競爭上の要點に其地歩を占めたるに干はらず、佛國の讓與を得たる地方は、南部の邊陬に在ることを知らざるべからず、伊國が三門灣請求に對し、英國の之に手を與へたる、亦解す可きには非ずや、何となれば浙江省を佛國の勢力下に置かるゝよりは伊國の勢力下に措かるゝ方、英國に取り負に都合善ければなり』と。

蓋し三門灣の請求に對する英國の政策たる、

一　浙江省は英國の欲する一なれども、揚子江流域一帶に廣大なる勢力圈帶を有する英國にして、之をも敢めんと主張せば、列强の猜忌を招く可し、而も之を拋棄して、赤の他人に得せしむ可からず。

二　伊國を同盟として、之に浙江省を得せしむれば、競敵列强の野心を塞ぐ可し、而して伊國の商工業は、未だ俄に此地方を充塡するに足らざれば、亦是れ英國の一吐口として間接に保留することを得べし。

三　兎はいへ能ふ可くば他國をして之を得せしめざれば、機會の許す時、亦英國に兼併することを得べし、伊國一度之が請求に出でたる以上は何れの國も直ちに之を横奪するを得じ、故に談判未了のまゝに現狀の維持せらるゝは、英國の最も希望する所ならん。

現勢論の著者は佛國の無頓著なるに呆然たり、然も豐富なる南部支那の三省に據り、且つ又廣州灣を占めたる佛國は、左ほど無頓著とも見えず、是れよりも支那分割の啓誘者にして、痩骨の福建一省を細々に請求し、請求の當時には、何國の閃影すら未だ見えざる隣の空きたる浙江省さへ、見向きもやらざりし日本は、眞乎無頓著の大王歟、否な有頓著過ぎたる小王ならん。

今や山東に於ける獨逸の事業は、漸く其緒に就き、非律賓に占據したる米國は、山りて以て支那沿岸に商業の便宜を得伊太利は三門灣租貸の談判を開き、白耳義は漢口に於て土地の讓與を希望し、近ごろ墺帝フランツ・ヨセフは或地點占取の命を含ましめ、戰鬪艦一隻を支那海に送られたり、蓋し墺國の歐洲に於ける其地位彼が如くなれば、帝の意は之を西方に失して、之を東方に收めんとするに在るものゝ如し、而して日本は鋭意工業の發達に勉め、歳計豫算の困難を忍びて、其陸海の軍備を擴張し、以て世界の一強たらんと期し、佛國は專ら印度支那鐵道の敷設に從事し、露國は滿洲鐵道の經營を怠らず、旅順軍港の防備に營々たり、此際支那を分割し、直接の利益を得べきものは其れ英國なる歟、彼は極東に擴張しつゝある列強の事業を中斷し、時機を相して支那帝國の最要部分より、歐洲列強及米國、日本を排除し、其要部を擧げて、之を自己一人の好食餌たらしめんと期せり。

（新註）墺國の戰艦を支那海に派遣するや、其意實に沿海の一地點を占有するに在りしが如し、當時歐洲の傳說にては、其地點は福建省中の一灣ならんとまで聞えし、幸にして其際には、事實とならずして已みたりと雖も、墺國は決して之を斷念するものに非ざる可し、蓋し現勢論の著者が洞見する如く、墺國の歐洲に於けるの地位は、將來頗る危險なるものあり、故に國民の心目をして、極東に對する墺國勢力の擴張に傾注せしむるは、內治上及外政上、最も策の得たるものなればなり。

之に就き吾人の注目を要するものは、墺國の擇取せんと欲し、地點に在り、墺國假令之を斷念するも、徒らに勢力範圍の空名のみに滿足し、之が經營に力むる無れば、其地に於て何國も其所思を遂行せんとを企つ可ければなり、的例彰々廣東に在り佛國は雲南、廣西、廣東とを合し、之が不割讓の特約を制したるに干はらず、英國は廣東省內の九龍一帶を新に占領せしには非ずや。

但だ夫れ英國の政事家が蘇丹の占領に見はしゝ其堅忍は感嘆す可しと雖も、露國の外交家亦何ぞ之に讓らんや、彼は冒險の擧に出でざるも、亦決して極東に於ける英國艦隊の示威運動に辟易せざる可きなり、佛國亦勝算なき海戰に應ずるものに非ず、若し其れ亞細亞の大陸に於ては、露國は一も英國の畏る可

前車の覆るは後車の誡なり

きを視ず、却て英國に對する無比の强敵たり、何となれば彼のカスピヤン貫串鐵道に由り、印度に波斯に大兵を突入せしむること、自由自在なればなり、彼我の弱點を比看しなば、英國こそ最も戒心を要す可けれ。

兎はいへ英國戰鬪艦隊の挑戰的遊弋は、終に支那問題を決定す可き國際談判の開始を促すに至る可し、事此に至らん乎、歐洲列强は應に想起すべし、英國が曩に佛國に歸せしめし無形的敗績を、……是れ寧ろ好機なり、抑、此侮辱たる、我佛人の心に銘して、須臾も忘れざる所なり、此際佛國の政事家は非常愼重の政策を執らざる可からず、即ち我植民的擴大に傾注す可きは固より論なく、我慶幸なる同盟に藉して、一大利益を己に收め、且つ一八七〇年の戰敗に鑑みて、新危難の現出に應じ、適當に之を處理し兼ねて歐洲列强の經濟的優進を助く可き政策を執らざる可からざるなり。

* * *

佛國政府の頻繁なる交迭は、其政策を朝變暮改せしめて已まず、其結果は則ち如何、是れ此無經驗の政策は、吾人をファショダに導きしには非ずや、但だ二十年來

經營の運命が、幸に其事業を一空に歸せしめざりしのみ。

過去出力の勞、其效と相報はざりしを憤慨せば、將來就く可き必要の道途を誤認すること無かる可し。

曩には米西の戰局に對し、華盛頓駐劄の我佛國大使は、兩國の間に立ちて、平和の基礎たる可き談判を成功せり、是れ我外務大臣デルカッセー氏が下院に於て稱贊せし言の如く『佛國に取りて何人も非認する能はざる無形の利益』なりしに非ずや、當時我中央の政事家にして若し矯激なる感情に驅られ、其判斷を誤りしならば、人以て如何と爲すや、然らば則ち一種の新聞紙が、政事思想も無く、徒らに謬悖の感情に司配せられ、ファショダ事件に就きて、露國が佛國に與へたる後援を惡解し非認するに驚かざるを得んや。

（新註）米西の戰端開くるや、佛國の新聞中盛に同情を西班牙に表し、佛國たるものは之を助けて米國に當らざる可からずと主張し、政府の一部にも亦多少此意を有せし政事家ありしも、當時の外務大臣アノトー氏は斷然之を排斥し、華盛頓駐劄大使ジュール・カムボン氏をして、兩國媾和の談判を開始せ

しめ、終に有名なる巴黎條約となるには至りたり、後ち英佛の間にファショダの事件發生するや、佛國數多の新聞は、露國同盟の力を以て英國と戰はんことを主張したりしに、露國は佛國に合して戰ふの意なく、之が調停を内助せり、是に於て乎露國同盟の頼むに足らざるを憤慨し、露國を罵詈するもの尠からず、著者乃ち佛の西に對したる舉を引きて、露の佛に對する跡を辯護し、露をして同盟の感情を冷却せしめざらんことを勉む、隠然一個の外交家たる襟度あり。

『露佛同盟にして佛國が英國より受來りたる脅迫をだに防ぐの力なくば、恐らく將來に避くべからざる戰爭に對し、此同盟を如何せんとするや』是れ神經的新聞に刺衝せられ、昂騰せる輿論なり。

（原註）　之に就き「ノヴォエ・ヴレミヤ」の巴黎通信員パフロウスキー氏が「露國の輿論とファショダ問題」と題し、「外交及植民問題」に掲載せし一篇は、彼が如く佛人の激昂せる問題に、正當の解答を與へたり、其言に曰く『英國の癇癪的攻撃に對しては、歐洲大陸の諸海軍强國は、連帶して之に當る可きなり』と。

露國の露佛に對するは即ち佛國の露國に對するが如く、似も似たる同盟なるや

此言太だ然り

斯かる場合に際し、露國の態度を諒解せんと欲せば、其眞意に立入りて之を求めざる可からず、抑露佛の同盟たる、我國一派の慷慨家が想像せるが如く、獨逸に對して起りたるものに非ず、即ち是れ世界の平和を維持せんが爲に、創興せられし所のものなり、而して露國は之に由りて、第一に其商業に動力を與へ、同時に近く生出せし其の工業の發達に資せんとする必要より出でたるものなり。

曰く地理的關係、曰く國民の同情、曰くサン・ステファノー條約の再審會議に於けるビスマルクの干渉、是れ露佛同盟化成の大要素のみ。

（新註）　サン・ステファノー條約は一八七八年露土戰爭の結果、露國が土國に制したる條約なり、然るに列强は露の獲得を過多なりとし、終に有名なる伯林會議となり、本條約を再審して、大に露の所獲を殺減せり、此次ビスマルクの干渉多きに居る、露國憤懣、終に露佛の同盟を促成せり。

然れども露佛同盟の目的は、夫の三國同盟が破壞したる歐洲の均衡を再設するに在りしことまでを非認するは、見童の見なり、但し露國の境遇は吾人と異

なり、故に吾人が獨逸に對する報復の政策に、此同盟を直ちに利用するは、露國の初より同意せざりし所なり。

今ま夫れ我佛國に對し獨逸難は滅じて英國難となるあるも、歐洲の靜謐上には一の加ふるものあらず、難は同じく難にして、危は同じく危なるのみ、何となれば各〻競ひて其植民地を搜し、其商業吐口を索めつゝある列强は何れの大陸に於ても、英國と面を對せざる可からざればなり、人其れ之を思へ、亞細亞に於ける露英の敵視や一日に非ず、即ち露國は此方面に於て、英國を窘困せしむるに汲々たる時に當りて、如何に我同盟たるも、佛國の爲に其全力を無限に傾注し得べしと謂ふ歟。

亦難護

夫れ然り、然りと雖も、共通の利益に基せる歐洲大陸の共同は、之が成功上極めて必要なり、即ち世界の鍵鑰を放棄して、一英國の私有たらしむるを防禦するに極めて必要なり。

歐洲大陸の同盟の傾向あるは是れ由れり

とはいへ一歩を進めて之を言へば、此共同も亦危殆を免かれず。

其故如何、英國は自家が歐洲怨惡の衝に當り、列强の動もすれば共同の傾向あるを熟知せり、故に彼は絶えず其の畏るゝ列强の海軍を破壞す可き機會を待てり。

英國の志も亦壯ならずや

佛國の海軍を滅盡し、無勢雌伏の伊國の前に横行し、地中海を以て自家庭園の一湖水と爲す、是れ英國が多年熟圖運籌せる計畫なり

英國に對し蘇士運河の所有に抗するもの、一國もこれ無きに至らん乎、獨帝如何に「鐵の甲拳」を揮ひ、捍衛せんと欲するも獨領阿弗利加植民地は、亦其有たるを得ざる可し。

抑、順次に敵を仆し、而る後ち效果を收むるの政策は、三ホーラス時代より始まり、今に及びて變ることあらず、其例は之を遠きに求めざるも、近く墺佛の事蹟に徵す可し、是れ此兩國が五年を距て、前後に敗績したる其出費は、乃ち獨逸の盛大を買ひたるには非ずや、人若し之を顧念せば、歐洲大陸は共同して、英國に打ち克たざる可からずとの、縝密なる注意を決定するに餘りあらん。

往時の原始雄飛國古今來變ることあらず、東洋を大局持ん扶持せんと欲すはの請忘れ之を勿れふる

（新註）羅馬のヂューリュス、ホスチリュスの世、羅馬とアルブと、戰爭多年にして決せず、時に羅馬にホーラス三兄弟あり、アルブにカヲヤス三兄弟あり、皆勇名あり、兩軍各〻三人を撰出して決鬪せしめ、勝者を出したる國、以て他を領す可しと約す、是に於て

亦又辯護

兩軍の前に其輸贏を定めしむ、初戰に於て、兩ホーウス死し三カリヤス皆傷つく一ホーウス以謂へらく、一人を以て三人と鬪ふは、之を離し順次に敵を仆すに在りと、乃ち再鬪を開くに當り、ホーウス佯り先づ走る、負傷の三カリヤス列を亂りて之を追ふ、近づけばホーウス還し鬪ひ、個々に三人を仆し、終に羅馬の全勝となれり、普國の先づ墺國を破り、次に佛國に克ち、終に獨逸の帝國を定めたる、亦斯くの如し、今や英國此故智を襲へり、大陸列強は力を戮せて之に當り之を防げざる可からず、英國を屏息せしめ、而を後ち歐洲大陸の盛大始めて期す可しといふなり。

ファショダ事件の時に當りては、歐大陸列強の外交未だ親密ならず、爲に佛國をして其後援を算するを得ざらしめき、之を追悔するは、無益の業のみ。

當時佛國の準備は未だ全からず、而して露國の艦は多く旅順に在り、海戰上有效の應援を爲すこと能はざりき、英國善く此事情を知れり、故に功を速戰に收めんと勉めしなり。

故に露國が彼が如き態度に出でたる、亦已むを得ざるに出づ、然りと雖も兩國政府の意は元一のみ、是故に當時戰端を開きしならば、佛國の英國に對する、決して單獨にはあらざりしならん、本年一月二十三日一八九九年外務大臣デルカッセー氏は、議會の演壇に立ちて公言して曰く『露國との關係今日の如く完全にして親密なるは、未だ曾て有らざりし所なり』と、然り佛國の平和的遜讓は、此兩大國民の同盟をして益〻壯大ならしめたり。

英伊の交漸く退ざかりて佛伊の際稍〻疎くなりつゝ

＊　＊　＊

更に亞爾布連山の一方を視れば、佛伊通商條約は、兩國溫交の發軔となり、兩國の關係は、日に接近親密を加ふるものあり。

倫敦駐劄伊國大使男爵ランツスが、近ごろ同府駐劄佛國大使カムボン氏に答へたる書中に、左の語あり、是れ豈兩國の爲に慶祝す可き兆ならざること莫らんや、曰く『和風の薰ずる黯雲を一掃せり、太陽天に輝く時、宜く既往を忘るべきなり』。

（新註）　三國同盟以來、佛伊の交情相乖離し、伊國近年英國と密通するに及び、反目益〻甚し、會〻三門灣の事發し、伊國深く英國に含む所あり、此際佛伊通商條約を更締し、兩國の通商に互惠する所あり、是より復た其舊交を溫め、互に接近し來るを見る。

ファショダ事件の悲境に際し、獨逸の態度は頗る好意を吾人に表しにき、只だ未だ

一顧一盼

世界の注目を惹くに至らざりしのみ、然れども此際獨逸が吾人に對して發揮したる同情に由りて斷ずれば、昨日の不幸は、却て佛國の勢力を增大ならしめたるものなりと稱す可し。

此に一國あり、其海軍の勢力は直ちに英國に亞ぎ、其陸軍は世界の最強陸軍國に匹敵し、之に加ふるに絶大帝國の同盟あり、之に對し英國は脅迫の步調を取り、無禮の言語を加へ、敢て忌憚せず、而して英國自身の地位如何と顧みれば、其同盟とする所は、曖昧模稜なるにも干はらず、自負自尊以て得たりと爲す、偶、彼をして益〻孤立に陷ゐらしむる所以なり、英の情態や彼が如し、明日の生事は彼を打壞す可きのみ。

チャムバーレン氏がウェークフィールドに於てしかく挑戰的演說中には、獨逸の同情を買はんと欲し、我親友の獨逸と煽揚せしも、本尊なる獨逸の外務大臣ビューロウ氏は、冷々たる語氣を以て之に答へ「或共通の利益」を擧證せしに過ぎず、而も其の所謂「或共通の利益」さへ、英獨間には太だ覺つかなき所なり。

英相チャムバーレン氏が絶えず歐洲を脅迫して煽動策を用ゆるに對し、獨帝維廉二世は特に宣明して曰く『獨逸の政策は世界の平和を鞏固ならしむるに在り、之より以外には目的をせず』と。

又「タイムス」が婉言媚撫して獨逸を捕捉せんとするに答へ、獨逸の新聞は眞率に言放てり曰く『獨逸は斷じて英國の護衛となることを聽さず』と。

又サー・エドモンド・モンソンが不穩當なる演說に對し、佛の「グローブ」が攻擊を加ふるや、獨逸の「ポスト」は英國に敎へ『漫りに挑發の擧に出でゝ、敢て運命を賭することなかれ』と。

又「ガゼット・ド・ヴォス」は最も觀る可き一篇を揭げ英國海軍の實力は外觀の如くなるものに非ず、其れにして孤立せば、然く畏る可きものならずと論ぜり。

以上列擧したる事實に由りて之を觀よ、英國の稱道する英獨同盟は、寔も獨逸に於ては興望あらず、且つ獨逸の公言する所に據れば、獨逸は未だ曾て英國を以て親交列强の上位に擬したることあらずと。

* * *

獨逸の國論は其れ斯くの如し、而も之を米國大統領マックキンレーの敎書に比

鬼の其窟なる親ふあり英亦枕すを高くす可からず

同帝去る者亦容ヤ易にチャムバーレンの煽動に乘らず

チャムバーレン稱道ぜしの英獨同盟は其實質の如し

すれば、尚ほ婉約を覺ゆ可し。

今や英國は沈默し復た言ふ所あらず、世人は早く之を忘るゝに至たりと呵々。

顧よ、英國政事家は北米合衆國に對し、諷諭と諛辭とを專用し、誘惑を試みたること彼が如くなりしも、此大共和國の大統領は愼重の態度と簡潔の意思とを持して、嘗て之に應ずるあらず。

第一英國は米國を諷諭し非律賓を分割せしめんと欲したるも、米國は全然之を領布し、天下復た分割の聲を聞かず。

次に英國は米國に敎示し、新領の群島に門戸開放政策を採用せしめんと欲したるも、米人の記性なき、早くも之を忘れたる歟、彼は彼の經濟的勢力上に要する所の保護政策を、依然本島に於ても繼行せんとするは、世人の最早解得せし所なら、ん。

越權脫し英志を得す

諧調一番英顏色なし

吁夫の一時人聽を聳動せしアングロ・サクソンの同盟なるもの、今ま果して何處に在るや。

彼ロード・キムバーレーは英米國際の親密を慶祝するも、同盟的觀念は既に遲く、今にして之が成功を想像するは、即ち己を欺くものなることは卿亦自ら覺悟したるを見る。

チャムバーレーの唱破せしも英米同盟は來るも亦斯くれば如し

此後援も亦中くらゐのみ

* * *

露國の同盟、獨逸の好意及米國の友情は、是れ英佛の爭鬪極點に達する時、佛國の賴る可き無形的後援なり。

此に復たび吾人の感慨を陳べん乎、ファショダの事件は元是れ不意の襲擊のみ、是に由りて吾人は寧ろ智識を得たり。

英國にして尚ほ其驕傲自負を改めず、依然人に加ふるあらん乎、是れ前に我デルカッセー及リボーの兩氏が、彼チャムバーレン氏の脅嚇的演說に答へたる正當の見解上に、英國自ら其身を投じ來れるものなり。（即ち自ら失敗を招致するものなり）

夫の格鬪者を見ずや、不意の襲擊に會ひて、一たび倒るゝも復たび起ちて、身體を撫摩し、其の微傷をだに負はざるを覺知するや、手に唾して、更に格鬪に從ふなり、我佛國亦斯くの如し、今や强大なる同盟國の應援すあり、又親交なる同情國の抱擁すあり、舊時の勢力は我に復したり、抑佛國は一八七〇年の記憶に由

佛國亦未だ人後に落ちず

りて、自ら篤信する所あり、又當時の挫折殘害、破壞の境遇を想起して、亦自ら矯正する所あり、乃ち敗績の中より必勝の要素を掬取し、更に新勇を奮起し、之を四方に試みて、突尼斯、安南、東京、ダホメー、蘇丹及馬達額斯加を征服せり倫敦駐剳我佛國大使が今一八九九年一月三十一日同府の商業會議所に於ける演說は、堂々として佛國の潛勢力を想見せしむるに足るものあり、其言に曰く『我佛國の資力たる、何人も測知する能はざる所なり、又其勉業と勇氣との保有亦廣大無量を見る、即ち吾人が是に由りて世界を驚かしめたるもの、嘗に一再のみならんや』と。

吾人は我直接の敵を見て、豈之に對する所以を忘らんや、若し其れ獨逸に對しては之と親交を保つ可し、蓋し獨逸は現に保有せる同情を、忽ち拋棄するが如き、無操守の國にあらざればなり。

レオン・サンチュベリー氏は「外交及植民問題」に一篇を掲げて曰く、

『今の時に當り、膽勇と堅忍と及巧妙とを以て、勢力擴大の計畫に從事するものは、則ち獨逸なり、遼遠の地方（主として極東）に於て危險の問題發生す時、歐洲にも均衡を與ふ可きものは、亦此獨逸なり、我佛國未來の利益に就き、深く思ひ遠く慮らば、植民政策上一種變通の關係を獨逸と共に討究するは、豈今日の必要に非ずや（佛獨接近の必要なるを云ふ）之を成すは難しと爲す歟、曰く否な、ファショダ事件の解決に當り、獨逸新聞の態度一般に温和なりしは、我國に對する當時の國論如何なりしかの一徵として見ることを得べし。

故に變通の一致、即ち部分的及場合的一致にして佛獨間に成立せん乎、其一致は默契のみとするも、埃及に於ける衝突の如き、其他英國の非望に因する衝突の如き、亦從ひて氷釋す可きのみ。

人はいふ、佛國の公論は未だ此種の進化を準備せずと、其れ然り、然りと雖も之を準備する亦難きに非ず、公論を導きて此に至らしめ、幷之に密接の利益あるを一般に會得せしむるは則ち社會の木鐸たる新聞の任務なり、新聞にして善く之に任じなば、豈其の致し難きを憂へんや』

本年九一八年九月二十一日の「クレール」に於て、ハムベルト氏も亦論じていへり、曰く『我佛國の外交政策をして、一に宿怨報復の上に在らしめば、佛國の干預する

外交問題は都て悪結果を伴ふ可きのみ』と、知言なりと謂ふ可し。（宿怨とは獨逸に對するもの）

自ら是れ實驗一國の外觀に過ぎざる可からず

豈獨り佛國のみならんや

ない又同月五日の「フィガロー」に於て、ポイスト氏は佛國植民地の實狀に關し、說を爲して曰く『余は信ず、一八八三年より一八八五年に亘り、支那に對し我外交の困難なるに際し、獨逸と共に商議を開き、由りて以て亞細亞に於ける我勢力の擴大を容易ならしめたる事實は、何人と雖も之を爭ふ者あらざる可し、……凡そ歐洲以外に於ける我行動にして、孤立の地位に在るは、畢竟佛國の利益にあらず、故に極東若くは紅海の口頭に於て、佛國を助くるの一强あらん乎、チャムベーレン氏の套語の如く、道途の一半は、我より進みて之と合せざる可からざるなり』と。

轉じて獨逸の新聞を看れば、「ガゼット・ド・コローニュ」は佛獨の接近に就き論じて曰く『佛蘭西共和國たる、紛擾相次げるにも干はらず、其進步の壯大實に驚く可きものあり、而も獨逸は之を視て憂懼するものに非ず』と。

最後に當に例證すべし、近くは佛國大統領フェリックス・フォールの葬儀に際し獨逸皇帝の代表者として參列したる公爵ラヂヴィルは、公然の資格を以て、獨逸皇帝は佛國に對し、最も親愛の情を表せられ、佛獨兩大國民の爲に、眞誠なる一致を得んことを、深く望ませたまふ旨を陳べ、英國に關しては特に明言せり曰く『今や獨逸は商業上の點よりして、大英國の一大競敵となれり、從ひて兩國の利害は彼が如く異なるものあり、故に英獨兩國間の完全なる一致を得んことは、到底望む可からざるに似たり』と。

（新註）　佛人動もすれば則ちいふ、佛獨は元來世敵に非ず、七〇年の事は一の變災（アンシデン）のみ、我深讐たるものは即ち英なりと、而して此感はファショダ事件に由りて愈〻益〻深きを加へたり、是に於て乎露國以外別に隣友を欲するの情なからず、獨帝の烱眼夙に之を觀取せられたり、既にして大統領フォール氏殂す、帝以て兩國の舊怨を釋くの一好機會と爲されしならん、フォール氏の未亡人に、內閣議長に、新大統領ルーベー氏に、寄せられたる親電の機敏と懇篤とは、人皆目を駭かせり、而してフォール氏の葬儀には、帝の左右に在る近侍の重臣數多を派して、特に來會せしめ、優渥鄭重至らざる所あらず、爲に羅甸的熱衷の巴黎府民をして、獨逸に對し、幾分悲憤の熱度を低下せしめたるの感あり、獨帝

の手腕亦敏なる哉。

乃ち觀る可し、大英の掠奪政策即ち獨占政策に對し、均衡の實を保たんが爲に、佛獨兩國の間には、植民的協商の感念油然として横生し、輿論は則ち佛國より獨國より各〻道途の一半づゝを進めつゝあるには非ずや、而して英國はファショダ事件の成功を繼續し山りて益〻利益を收めんと欲し、上海に於て、蘆谷に於て、及マスカートに於て、衝突又衝突し、到る處に我利益を奪はんとす、故に佛獨兩國の接近は即ち英國の促成せしめし所、準備せしめし所なり、然れば一朝此防衛者に對するあるも、英其れ驚くを用ゐざる可きなり。

家貧くして其妻を思ひ國危くして善隣を思ふ佛國在りき

* * *

然れども吾人は絶えず英國を注視し、直ちに彼に迫る無く、彼に抗するの準備を要す。

強大なれ、強大なれ、彼を屈服せしむるものは、獨り兵力これあるのみ。

兎はいへ英國の政府及人民は豫め諒知すべし、吾人は英國の植民地に、又其の阿弗利加及ひ支那に於ける經濟的企業に對し、惡意を有する者に非ざることを。

羅にチャムバーレン氏はウェークフィールドに於ける演說中、明言して曰く『英國は今日に至るまで、支那に於ては頗る成功せり、歐洲列强が競ひて要求する土地、鐵道及鑛山の讓與に關しては、英國の分取せしところ最も其の多きを占めたり、故に英國の商館及銀行は、決して他國の所得を羨むを用ゐざるなり』と、英國政事家の意果して此に在らば、英國を論ずも亦易々たり、何となれば彼等の近畿は能く之を保つ所以に非ざればなり。

唯だ我利如何と顧るのみ

且つ本年一八九九年一月二十六日英國內務秘書官リッドレー氏が、ブラックプールにおける演說は、一層前說を確むるものあり、其言に曰く『支那に於て英國が得たる諸讓與は、露國の得たるものに比し、優に相殺して餘りあり、且つ政府は何れの方面に於ても、毫も英國の利益を犧牲したることあらず』と。

空言施す所なし恐い哉

英國の政府員にして、政府の支那に收めたる功績の顯著を誇負するや斯くの如し、而るに佛國が上海の領事館に於ける少許の土地增加を要求すれば、憤怒し恐駭して之を峻拒するは、豈亦以て異ならずや。

吾人は吾人の財産を高價にし、之を富贍ならしむれば足れり。（現在の植民地を發達せしむれば即ち足れり）

我植民地は富み且つ豐かなり、亞細亞大陸への我平和的進入（南部支那へ商工的進入）のは、東京の發達を伴はざる可からず、若し此兩箇の出力を分離せば、植民事業は則ち廢れんのみ。

我諸植民地の總督は、各、其植民地に商工業の吐口を確保するに勉む可し、經濟的競爭には到る處に其場處を要す。

自國の所領を繁榮せしむるは、則ち其國の權利に屬す、誰か之に一針をだに刺す者ぞ。

（我國の爲にも亦いふ）

植民的企業の挫折は、繼續の精神の缺乏に因す、斷々として事に從ひ、凝聚固定せしむ可し。

宜くファショダに鑑むべし、之に鑑みて一新精神を作興し、不意なる事變の發生の爲に、企業の中絶を招くこと勿れ。

* * *

佛國が占領せし土壤の廣大なる、之に對し擴大す可き我勢力に超過せり、我征服は此に限る可し、之より多きを望む可からず。

經濟界に於ける英獨の競爭は、英國の勢力を抑損す可し、是れ佛國植民的伸張の機なり、英の發達遲澁し沮滯せらるゝは、佛の利益の保護し防衛せらるゝ所以なり。

（植民的擴張は今世紀特に日露戰爭以來亦た力を加へ、國民の注目すべき現象なり。）

* * *

將來常に英國の脅迫を意とすること勿れ、彼艦隊の示威運動や、彼新聞の恫喝暴言や、固より齒牙に掛くるに足らず、我外務省豫算報告委員ジョージ・ベルセー氏が報告「一八九八年に於ける列强の地位」中に論ずるあり、曰く、

『最近のファショダ事件に對し、英國要求の彈壓が、我政府の決心を左右したるは、吾人の齊しく認むる所なり、若し國家にして平和を以て最上の利益と思惟せば、絶えず十分の注意を加へ、將來斯かる未必の危險の再たび回轉し來る可きを豫想し、之に應ずる所以を講明し置かざる可けんや。

但しファショダ事件に就き、佛國の利益の全然捍衛せられざりしを以て、罪を當

豈啻だ外務植民の二者のみならんや外務と陸海軍亦又然り日本政府の爲に之を特表し留ゝんこ欲す

時の外交に歸す可からず、其故如何、吾人は此二十八年間常に悲慘の紀念に驅られ、一種の思想を有せしに非ずや（獨逸に對する報復心をいふ）從ひて吾人は其他を顧念するに遑あらず、夫の一危難の偶生横出し來りて吾人に迫りたるが如き、吾人の未だ豫見せざりし所なればなり、是故に今後外交問題と植民問題とは密接なる關係の間に置き、殊に外務植民兩省ともに關係ある事項に至りては事毎に豫め其議を協へ、而る後之を決定するは最も必要の急務ならん、思へ、植民政策の必要より迸發する所の事件は直ちに延きて佛國と列强との國際に之が影響を及ぼすことを、……ファショダの經驗は吾人に命ず、元氣を作興して將來に對することを、否らざれば吾は我權利を有するに干はらず、舉げて之を一强の手に歸せんのみ、彼海洋航路及海底電線の主は轉じて亞細亞及阿弗利加の大陸に向ひ、其中心へ進入の線路大道を確保するに營々として努むるに非ずや』

（原註）世界の海底線路は左の如し、

英國政府所有線	三四、〇〇〇、〇〇〇基米
英國「シンヂケート」所有線	一七三、〇〇〇、〇〇〇
佛國會社所有線	一七、〇〇〇、〇〇〇
米國及丁抹の會社所有線	九三、〇〇〇、〇〇〇
合計	三一七、〇〇〇、〇〇〇

即ち觀る可し、英國に屬するもの二億〇七百萬基米にして、佛國に屬するものは僅に一千七百萬基米に過ぎざることを。

故に曰く王に請ふ其本に反れ

憤怒を和げ、煩氣を抑ゆるには此二つのものに克つ所以を準備せざる可からず、權利の枉屈を受けざらんと欲せば、唯だ勢力の强大を致すに在るのみ、用意愼重、常に競敵兵力の進歩を觀察し、之に應ずるの兵備を怠らずは佛國は善く競敵をして謙讓謹愼ならしむるに至る可し、何となれば平和の製造は我佛國のみの事業に非ず、是れ實に列强政府の業とす可き所のものにして、又其平和を維持せしむるの注意に至りては、列强人民の任務なればなり。ファショダの變ありしより茲に六閲月、即今の情勢は則ち如何、今日に至り英國は其事業の鞏固如何に頗る疑懼を生じ、衷心惕々として自家の倨傲を悔ゐるの狀あり、從ひ

てポシュエーの所謂『欲するが故に信ずる』を止め、復た禍亂の挑發を事とせざるには至れり、近く之を英國政事家の演說に徵すれば、彼と始めて大膽不敵の忘想を棄て、我佛國に對し、交誼を温むるの意あるを見る。

兎はいへ、之を視て最早疑似の餘地なく、紛議の辭柄絶えたりと速了す可からず、現に之を上海事件、遞羅事件及マスカート事件に徵しなば、歴々之を證するに足らん。

（原註）上海在勤佛國領事が提出したる土地擴張の要求に關し、侯爵サリスバリーより、北京駐劄英國公使に與へたる電報の訓令は、英國當時の意思を知るの便あれば、英國の青冊（ブルーブック）より、此に抄出す。

一八九八年十二月三日附侯爵サリスバリーの訓令に曰く、

『佛國領事は威力に藉し、上海に於ける佛國租界地の一大擴張を制するの目的を以て、佛國軍艦に乘り、南京に向ひ出發したり、此要求地區たる、他國民の重要なる利益の繫る處たれば、此際佛國裁判權の增大を防止す可き、迅速の擧に出づるを緊急とす』

同月九日附の訓令に曰く、

『支那政府を强要し、上海に於ける佛國租界地の擴張を拒絶せしむ可し』

同月十九日附を以てサー・クロード・マクドナルドは、本件の進行を外務省に電報して曰く、『英國軍艦二隻、現に南京の港內に在るを以て、南京總督（即ち兩江總督）は無形の助を得、其地に於て佛國領事の脅迫に抵抗せり』

此報の達するや、侯爵サリスバリーは、海軍本部に向ひ、更に直ちに第三艦を派遣せんことを請求せり。

同月二十四日首相は更に總理衙門に通報して曰く、

『佛國要求の租界地擴張を拒絶せらるゝあらば、英國は十分貴國を助く可し』

次ぎて支那政府より佛國に向ひ提供したる條項に關し、一八九九年一月三日侯爵サリスバリーはサー・クロード・マクドナルドに、詳細なる訓令を與へたり、曰く、

『種々の理由に因り、佛國に對する支那政府の提案には、十分反對せざる可からず。

第一　此提案に從へば、英國臣民の財産は、佛國政府管轄の下に置かるゝものなり。

第二　此新裁判權を佛國政府に與ふるとせば、支那政府は他國に許さゞる特惠を佛國のみに與ふるものなり。

第三　揚子江流域地方は、一分たりとも他國に讓與せずとは、昨年の夏支那政府の締約せし所なれば、此提案は之に違反するものなり。

此錯例に同意を與ふるは、英國政府の絶對に反對する所なり、故に斯かる事項を承認するは、英國權利の侵害なる旨を、貴官は支那政府に警告す可し。

尙ほ此際貴官は艦隊提督に向ひ、軍艦一隻を上海に送る可きことを請求す可し』

是れ我親交なる英國の訴訟なり、即ち佛國の正當なる要求を拒絶せしめんが爲に、ロード・サリスバリーが北京朝廷に許したる兵力的援助なり、而して其談判の衝に當る南京總督を强制せんが爲に、軍艦四隻までを送遣せしは、人々の目睹せし所ならん。

上海に於て彼が如く我權利を頓挫せしめたる英國は、又遼羅をも煽動し、同國宮中儀式の當日、遼羅官吏をして侮辱を我に加へしめ、次にはマスカートの急襲とはなれり（マスカートは波斯オマン灣の沿岸に在り）し、即ち我謙退無爲に乘じ、英の海軍提督ドウグラスは、不公不遜にも砲火に訴へ、「シュルタン」を脅迫して、其目的を達するに至れり。

正理の明光より照し看れば、斯かる無道の脅迫政策は、畏る可しといふよりも、寧ろ滑稽なり、但だ其結果や危險なり、故に之に對し適宜の措置を怠るあらば、佛國は是れ最大の不幸を豫見するの明なきものなり、近時支那に於ける我外交の窮境を視て、佛國を怯弱なりといふ者あるも、其れ何の辭ありて之を解くを得んや、四川に於ける佛國宣教師の殘殺、上海に於ける租界地要求の拒絶、二十年來計畫事業の頓挫、是れ皆ファショダの影響にあらざる無し。

然りと雖も是等痛恨の事實は、未だ吾人を落膽せしむるに足らず、寧ろ其事實は明かに吾人に敎ふ、史上に留む可き政策なるものは、徒らに騷擾紛亂の謂に非ざることを、又詳かに吾人に誨ふ、人民の精神は、古傳の指命に由り成立すと

せば、一國の運命は、敵國の運命に由りて生存するものなることを。吁此世紀の末に方り、我明敏なる愛國の士は、目を境外に注めざる可けんや。

ドルン・モントー氏の言に曰く『佛國は最も挺進して人道の階段に起てりと雖も、四邊に發する野蠻情態への還元に注意せざる可からず、又正義と道理の根源たる權利の非認に注意せざる可からず、是れ強者が詐力に藉り佛國の精神は何處までも平和と文明の無二なる親友を以て自期せざる可からずと雖も、暴力の壓迫に會する時は、之を擊退するの準備を怠る可からず、吁我佛國人よ、宜く牆内の相鬩を廢て、戮力協心して敵に對すべし。クロンウェルの言あり、今まで其一語を改めて、英佛に汝に示さん「佛國人よ、正義を信ぜよ、正義を求めよ、而も手に乾燥火藥を解くことを勿れ」と』（外交及植民論中にある氏の論駁）

我國命の脈搏を候して、世界の變遷に替へよ、現狀果して如何と爲す、茂々乎として其れ危い哉。

支那現勢論　終

支那現勢論附錄

地名便覽

地名便覽

本書中擧ぐる所の東洋の地名は、皆時局に關するものなり、其稱呼を知るに便せんが爲に、東西の文字を掲げて、對照に備ふ。

此に掲ぐる所は佛字に係る、佛字英字と其音少しく異なり、故に英字を以て記せる同地名を知らんと欲する時は、左の對照に由りて、索引す可し。

佛音	英音
ch 〃	sh
chan 〃	shan
chin 〃	shin
ou 〃	u
toun 〃	tun
teh 〃	ch
kin 〃	chu

支那音

teh	k
tehi 〃	ki

餘は類推す可し。

附錄

支那

滿洲	chine
愛琿	Mandchourie
黑龍江	Aïgoun
伯都訥 又ベトナ、寺 姓の上ニ付ケタリ	Amour
復州	Bédouné (Petuna)
吉林 又キリン	Fou-tchéou
金州	Girin (kirin)
錦州府	kin-tchéou
遼東	kin-tchéou-fou
奉天府 即チフエンチエン	Liau-toung
嫩河	Monkden (Fen-tien)
牛莊 西人ハ營口ヲ牛莊ト呼ブ	Nonni
齊古塔	New-chwang
	Ningouta

独ヨウズ松花江カ嫩江ヲ合スル地点ニ伯都訥ト称スル小都会アリ三姓ハ黑龍江ト松花江下流珊瑚哈河注入ノ交点ニ在リ

本書載ス所ノ伯都訥東清鉄道ニ関スモ全ク正ニ嫩江ノ合流点ニ在リ

アダムズ口 台灣ニ在リ	Port-Adams
旅順口	Port-Arthur
盛京	Shing-king
新民廳	Sin-men-ting
松花江	Sougari
大連灣	Ta-lien-wan
齊々哈爾	Tsitsikhar
鴨綠江	Yalu
營口 營子口の意歟	Yin-tsi-kou
直隸省	Tchi-li
山海關	Chang-haï-kouan
開平	Kaï-ping
蓋溝橋	Lou-ko-tchiao
八里橋	Pa-li-kao

保定府	Pao-ting-fou
北京	Péking
白河	Peï-ho
北塘	Pé-tang
北直隸 一般人には北直隸を呼びふて	Pé-tchi-li
太沽	Takou
塘沽	Tang-kou
張家口	Tchang-tcha-kou
正定府	Tchin-tching-fou
天津	Tien-tsin
甘粛省	Kan-sou
蘭州府	Lan-tchéou-fou
陝西省	Chen-si
西安府	Si-ngan-fou
長安の	

渭河 渭即ち	Weï-ho
河南省	Ho-nan
懷慶府	Hwai-king-fou
開封府	Kaï-foung-fou
山西省	Chan-si
太原府	Taï-yen-fou
澤州府	Tsé-tchéou-fou
山東省	Chan-toung
黄河	Hoang-ho
膠州	Kiao-tchéou
萊州府	Laï-tchéou-fou
廟島	Miao-tao
平度州	Pin-tou-tchéou
博山	Po-chan

泰山	Taï-chan
芝罘	Tché-fou (Chifu)
登州府	Teng-tchéou-fou
濟南府	Tsi-nan-fou
濰縣	Weï-hien
威海衛	Weï-haï-weï
兗州府	Yen-tchéou-fou
四川省	Se-tchouen
寧遠府	Kia-ting-fou
叙州府	Sou-tchéou-fou
松潘廳	Soung-pang-ting
成都府	Tching-fou-fou
重慶府又チンチフユン	Tchoung-tcheng-fou(Tchoung-king-fou)
貴州省	Koeï-tchéou

貴陽府	Koeï-yang-fou
湖北省	Wu-kiang
烏江	Hou-pé
沙市	Cha-chi
漢口又ハンカウ	Han-kéou (Han-kao)
漢江漢即水チ	Han-kiang
漢陽府	Han-yang-fou
武昌府	Ou-tchang-fou
荆州府又キンチフ	Tching-tchéou-fou (King-tchéou-fou)
宜昌府	Yi-tchang-fou
湖南省	Hou-nan
湘江湘即水チ	Chang-kiang
湘潭	Chang-tan
長沙府	Tchang-cha-fou

常德府	Tchang-té-fou
洞庭湖	Toung-ting (Lac)
沅江縣即ち沅江	Yen-kiang
饒州府	Yo-tchéou-fou
江西省	Kiang-si
贛江	Kan-kiang
九江府	Kiou-kiang-fou
南昌府 カヌナン	Nan-tchang-fou(Nan-kang-fou)
鄱陽湖	Po-yang (Lac)
安徽省	Ngan-hoeï
蕪湖縣	Ou-hou-hien (Wuhu)
安慶府	Ngan-king-fou
江蘇省	Kiang-sou
上海	Chang-haï

舟山群島	Chusan (îles)
江寧府 即ち南京	Kiang-ning-fou
南京	Nan-king
蘇州府	Sou-tchéou-fou
太湖	Ta-hou (lac)
鎮江府	Tchin-kiang-fou
吳淞	Wou-sung
揚子江	Yang-tsé-kiang
浙江省	Tché-kiang
杭州府	Han-tchéou-fou
寧海	Ning-haï
寧波	Ning-po
三門灣	San-mun (baie)
温州府	Wen-tchéou-fou

福建省	Fou-kien
厦門	Amoy
福寧府（一府に付）	Fou-ning-fou
福州府	Fou-tchéou-fou
閩江	Min-kiang
三沙（三部、一境に）	Samsah (baie)
廣東省	Kouang-toung
廣東（廣西人には廣州府下府の字形として通ずに）	Canton
韶州府	Chao-tchéou-fou
海南	Haï-nan
海口（又カオポイ）	Hoï-hoou (Hoï-kao)
瓊州府	Kioung-tchéou-fou
廣灣（佛蘭國の半島に在り）	Kouang-tchéou (baie)
廣州府（廣西人なの引所四）	Kouang-tchéou-fou

廣西省	Kouang-si
梧州府	Kou-pé
雷州（半島）	Leï-tchéou
澳門（又ポルトガル）	Macao
北海	Pak-hoï
北江	Pé-kiang
サン・ジャン島	Saint-jean (îles)
西江	Si-kiang
汕頭	Swatow
潮州府	Tchao-tchéou-fou
肇慶府	Tchao-tching-fou
東江	Toung-kiang
ユリンカン灣	Yulinkan (baie)

桂江	Kueï-kiang
龍州	Long-tchéou
南寧府	Nan-ning-fou
梧州府	Ou-tchéou-fou
百色	Pé-sé
鬱江	Yu-kiang
雲南省	Yun-nan
順寧府	Chun-nin-fou
和曲	Ho-kéou
廣南府	Kouang-nan-fou
蒙化廳	Man-hao (mong-hua)
蒙自	Mong-tsé
普洱府	Pou-eul
大理府	Ta-li-fou

昭通府	Tchao-tong-fou
茂南	Tze-mao
雲南府	Yun-nan-fou
日本國領	
臺灣	Taïwan (Formose)
基隆	Kiluug
臺南	Taïnan (Taïwan)
臺北	Taïpó
打狗	Takao
淡水	Tamsui
澎湖島	Pescadores
媽宮	Makung
英國領	
大鵬灣	Deep-bay

香港	Hongkong
九龍	Kaulung
深州灣	Mirs-bay
維多利亞	Victoria
佛領印度支那	Indochine
安南	Annam
萬寧	Bacninh
柬埔寨	Cambodge
交趾支那	Cochin-chine
海防	Haï-phong
河內	Hanoï
順化	Hué
廣平	Kwan-binh
諒山	Lang-son

老撾	Laos
老開	Lao-kaï
湄公河	Mé-kong
南定	Nam-dinh
寧平	Ninh-binh
黑河	Noir (r)
廣治	Quang-tri
紅河	Rouge (f)
西貢	Saïgon
峇仙江	Sou-koï
太原	Taï-nguen
東京	Tonking
緬甸	Birma

木浦	Bakmo
元山	Irraouaddy
釜山	Koun-long
濟物浦	Mandalé
朝鮮	Salouen
湄南江	Rangoun
盤谷	Siam
暹羅	Bangkok
冷宮	Ménam
滿江	Corée
マンダレー 首都府の	Chemulpo
崑崙即ち瓦池	Fousan
瓦利江	Gensan
錫爽	Makpo

平壤	Phyeng-yang
哈彌爾頓港口に在り	Port-Hamilton
ラザレフ	Port-Lazareff
濟州島	Quelpart (île)
京城	Séoul
義州	Wi-ju

明治三十四年二月二十日印刷
明治三十四年三月三日發行

定價金七拾錢

著譯者　支那調査會
芝區櫻田本郷町十七番地

右代表者　遠山景直
牛込區若宮町三十九番地

發行者　遠山景直
牛込區若宮町三十九番地

印刷者　大野金太郎
京橋區西紺屋町二十六七番地

印刷所　株式會社秀英舍
京橋區西紺屋町二十六七番地

發行所　支那調査會

版權所有

發賣所

東京市京橋區瀧山町　耕讀社
同　銀坐三丁目　服部書店
同　日本橋區通三丁目　丸善書店
同　神田表神保町　東京堂
同　同　八尾書店
同　裏神保町　敬業社
大阪備後町四丁目　吉岡平助
京都東洞院三條上ル　村上勘兵衛
筑前博多中島町　積善館支店

東邦協會發行圖書目

米國海軍大佐マハン氏著水交社譯

前編　**海上權力史論**　菊判二冊　總クロース上製　定價金貳圓五拾錢　郵稅金貳拾八錢

同　上

後編　佛國革命時代　**海上權力史論**　菊判二冊　總クロース上製　定價金壹圓　郵稅金貳拾八錢

支那革命派首領孫文逸仙編著

支那現勢地圖　附國勢一班并列國經營鐵道　幅員四尺（帙入）　定價金壹圓　郵稅金六錢

副島伯題辭、井上博士那珂通世　鎌田榮吉君序

田中萃一郎君著

上卷　**東邦近世史**　菊判總クロース上製　定價金壹圓　郵稅金拾貳錢

東邦協會編纂（第一輯）

東邦小鑑　定價金壹圓　郵稅金六錢

東邦協會編

亞細亞全圖　（縱一尺二寸、横一尺五寸）　定價金貳拾錢（郵稅貳錢）　帙入金貳拾五錢（郵稅四錢）

發行所　東京市芝區櫻田本郷町十七番地　東邦協會

東京市京橋區瀧山町三番地　耕讀社

發賣所

東京神田東京堂●同上八尾書店●東京銀座服部書店●東京日本橋丸善●大阪吉岡書店●筑前博多積善館支店

福本誠君著　●耕讀社發行

現歐洲　定價金貳拾五錢　郵稅金四錢

90
77

026506-000-4

90-77

支那現勢論

支那調査会

M34

ADD-0169